

養父市大屋村芸術文化村構想について

1. 概要

養父市大屋町は養父市の南西に位置し、豊かな自然環境、景観、独自の文化がある。この大屋地域に、芸術家が住みつき、芸術文化地域を形成している。これを発展的に地域振興に結び付けることを目指すのが「大屋芸術文化村構想」である。

即ち、県北部の山間で生まれた木彫芸術「木彫フォークアート」を核に外来の芸術家の受け皿となり、また関西地域をターゲットに芸術を体験する人を受け入れることを目指すものである。

大屋地域には、木彫、陶芸、絵画、書、木工、家具等の芸術家が住みついており、一つの芸術文化地域を形成している。そして、1994年から木彫をベースとした「木彫フォークアート・おおや」を開催し、全国各地から木彫作品が集まり、優秀作品は市が買い取りを行っており、かなりの財産となっている。現在、95点を養父市木彫展示館に収蔵、公開している。

1996年から大屋地域に住んでいる作家たちが自主的に合同で「うちげえのアート・おおや」を開催している。毎年、7月上旬に大屋町の3階建ての養蚕住宅や、木彫展示館等に訳400点の作品を展示、公開している。また、近年、空き家だった3階建てを改造したギャラリーや、旧郵便局の局舎の一部を改装したギャラリーが相次いでオープンしている。

この大屋芸術文化村のリーダーともなっているのが、木彫家の松田一戯郎夫妻、弟子の木彫家市川祐之氏、画家の田中今子氏、それに建築家の河邊夫妻氏等である。町内は、木彫作品を象った石造の作品があちこちにあり、芸術文化の雰囲気醸成している。

更には、画家、書道家、陶芸家等がそれぞれの活動を経て、自立しつつある。

大屋芸術村については、これまで有志の方々と養父市役所大屋支所の和田氏を中心として、地道な活動を行ってきた。これらを踏まえて、平成21年頃より、養父市としても大屋芸術村を地域振興の一つと位置付け積極的活動に転じている。

即ち、平成21年10月4日に、木彫フォークアートおおや授賞式で広瀬養父市長から大屋地域を芸術をテーマにしたまちづくりを進めたい旨の発表が行われた。これを受けて、10月7日に、大屋地域政策研究会議が開かれ、芸術をテーマにしたまちづくりについて大屋地域局内部で検討・意見交換が行われた。そして、10月16日に大屋地域局において、「芸術村構想」の素案づくりが行われ、10月21日に鳥取大学光多教授に「芸術村構想」(素案)等について概要説明と協力依頼を行った。また、10月30日に但馬県民局長に「芸術村構想」(素案)について概要説明を行っている。

2. 平成21年度の動き

これを受けて、光多が、芸術村文化村構想の具体的進め方について講演を行った【資料1及び2】。これらを受け、地元で推進協議会を設立、光多もアドバイザーとなった。この推進協議会は随時開催されており【資料3】地元の動きは熱いものがある。

その後、神戸等で芸術展を開催しつつ地道な活動を行っている【資料4】。

これらを受け、財団法人都市化研究公室として、このプロジェクトを支援することとし、平成22年2月に、光多、鳥取大学大学院小谷、鳥取大学 光多、小谷、地域開発センター北川主任研究員、コンサルタントの五十嵐氏、国交省地域振興局古澤補佐で現地を訪問し（出張旅費は財団で支弁）意見交換を行った。この結果の報告書は、【資料5】の通りである。

3．平成22年度の動き

推進協議会の規約作り、会員募集等の地道な活動を行っている【資料6・7】が、これを促進せんとして、都市化研究公室は、本プロジェクトを地域活動支援事業とした。そして、まず、平成22年7月に当財団評議員でもある藤学園大学三宅教授にお出でいただき現地を見て、意見交換を行った【資料8】。

更に、これを推進すべく、平成22年9月に光多、鳥取大学大学院小谷、及び鳥取大学センター後藤准教授が現地に出向いて、推進協議会に出席して意見交換及びアドバイスを行った。

他方、これと並行して、大屋を中心に保田神戸大学名誉教授の指導の下に大屋有機農業学校が開設され、地域での安心できる農作物づくりが進行し、地域の方々が数多く参加されている。

4．平成23年度から24年度にかけての動き

旧大屋高校が兵庫県から養父市に無償払下げされることとなり、いよいよ大屋ビッグラボ計画が具体化することとなる。大屋ビッグラボ協議会が動きだし、松田さん、田中さんを中心に大屋ビッグラボの展示計画、教室計画等が動き出すこととなった。併行して、大杉地区の分散ギャラリーを中心とする地域の整備が、兵庫県の地域再生等支援プロジェクトに指定される見通しが立ったため、当該地域の整備計画の策定に入った。外部コンサルタントの協力も得て、23年度末に計画書が作成され、兵庫県に提出された。（別添計画書山椒）

なお、2011.3.11の東北大震災の支援を当プロジェクトでも行うこととして、三陸鉄道の大震災支援カレー＆ハヤシを地域で販売する活動を行っている。中学生も先頭に立って大屋ビッグラボで販売しており、これに支援する基金も創設されており、これも文化活動の一環と考えても良いのではないかと考えられる。（別添資料参照）

【資料 1】

芸術文化関連プロジェクトについて

1. 基本的課題

- ・ 芸術・文化系統と経済原則との関連（勝手な連中）
- ・ 幅の広さ（範囲が広くかつ拡大中）
- ・ 人間の感性に関連する 自己増殖するか、動かない

2. 対象のタイプ分け

- ・ 住民の芸術文化活動支援型
- ・ 芸術家等の芸術活動拠点型
- ・ テーマパーク型

3. 事例

三重県四日市四菰野

- ・ 芸術家居住、訪問者との交流

福井県越前市陶芸村（旧宮崎村）

- ・ 歴史的陶芸の復活
- ・ 全国から陶芸家志望者を募集、まとまりがある陶芸村
- ・ 勅使河原宏がコーディネートかつ作陶

山形県山寺

- ・ 郡山のお菓子や（三万石）が瀬戸内寂聴の庵として作ったもの

その他テーマパーク（芸術・文化的なもの）

- ・ 伊勢お陰横丁
- ・ 小布施
- ・ 大分県昭和村

4. プロセス

概念の明確化

ヒト（キーパーソン）

歴史との関係（火がないところに煙は立たない。歴史は最大のヒント）

アヒルの水かきの必要性（水のかき方の検討）

行政内部の体制と応援団の形成の仕方

補助金に頼らないスキーム

【資料2】

大屋芸術村構想の推進方策について

1. 事業主体と推進者

- ・事業主体を早期に作る必要がある
- ・第三セクターで衣替え（株主を含めて）できると組織がないか、又は特定の民間企業があるか。いずれにしても協議会や任意団体では動かない。
- ・推進する人を考える必要がある。キーパーソンを置いて、それをアドバイサリーボードが助言していくような体制作りを考えていく必要があるのではないか。

2. 芸術村の柱

- ・木彫や絵画のアートの芸術家を誘致するか、定年退職者等の一時リフレッシュ村を目指すか、大学文化部の合宿所を目指すか、ターゲットを絞って考える必要があるのではないか。
- ・生計を立てる人を誘致するには、住宅等の手当て、準備金の用意等が必要であろう。また、リフレッシュ機能等については、指導者を考える必要がある。刀の持ち方から教える指導者が必要。
- ・大学の文化サークル等については需要調査を行う必要があるが、立地条件等から見てかなり可能性はあると考えられる。

3. 施設整備

- ・古民家を修復して使用可能な民家を特定し、権利関係等を含めコスト計算等を行う必要がある。
- ・食事の準備をどうするか。仕出し等の体制整備を整えられるか。八鹿の方まで含めて体制整備が可能かどうかの検討を行う必要がある。
- ・常設売店の整備。

4. ハードの整備

- ・シンボルロードの整備を行う。特定中核地域に雰囲気があるシンボルロードを整備することが必要。

5. フィージビリティスタディの検討

- ・いくつかのケースにより採算性の検討を行う必要がある。

6. 参考事例調査

- ・富山県山田村（早稲田演劇部）

- ・石川県七尾市中島町（仲代達也の無名塾による演劇街づくり）
- ・福井県宮崎村の陶芸越前村

【資料3】

これまで意見交換会の主な意見

2010.1.12

大屋地域局 和田

- 1 不景気で芸術家は大変な時代になっている。大きな作品は売れなくなった。彫刻を学ぶ学生も減ってきているようだ。（松田）
- 2 大きな作品を製作・展示するスペースが欲しい。廃校を活用し、芸術家の創作の場となる貸しアトリエを考えてはどうか。（松田）
- 3 商工会産業クラスター研究会では、養父市の新たな観光資源として大屋の芸術に関心と期待を持っている。アクティブシニアを対象にした「アートにふれる旅 in 大屋」といった2泊3日の滞在型のツアーを商品化できないか。このなかには県立大学も参画している。合わせて魅力ある食事のメニュー開発も必要。（商工会 浄慶）
商工会産業クラスター研究会と合同で2泊3日の芸術体験ツアーの実施を検討する。
滞在場所は、アユ公園のペンション、3日間で木彫作品づくり
- 4 木彫教室をしても短期間で木彫づくりを覚えるのは大変。木工ろくろなどで製作する方法もある。（市川）
- 5 事業には投資のリスクがつきものだ。公的なバックアップがあれば助かる。（商工会 浄慶）
- 6 「芸術村構想」の推進は芸術家だけでなく、関心のある一般市民も参加する取り組みにすべきだ。各種団体の代表者では動かない。（田中）
- 7 岡山県真庭市の勝山のまちづくりのように楽しみながら取り組みこと。活動の輪を広げ、町ぐるみで盛り上げようにならう。誰でも参加できる。開かれた芸術村をすすめるべきだ。（田中）

8 彫刻や絵画等だけでなく、音楽や子ども達も楽しめるような村（地域）にしていきたい。（田中）

9 大屋には自然が豊富で古い民家も多い。大屋に行ってみたら「得」をするような場所にしたい。（児島）

10 松田一戯さんの大きな作品をちゃんと展示する場所が欲しい。松田さんらの作品であればあれば、多くに人を呼び込むことができる。（田中）

11 以前、明延で木彫づくりをしていた故石田英二さんの木彫作品を展示する場所を探している。（松田）

12 大屋全体を芸術村にするより、木彫展示館やギャラリー、3階建て養蚕住宅のある大杉地区を中心に取り組んだらどうか。（商工会 栃尾）

12 アートは敷居が高いと思われる。もっと身近に感じるようにしていかければ広がらない。（田中）

13 大屋にはミズバショウ、樽見の大桜、天滝、横行溪谷、氷ノ山といった四季を通じて楽しめる自然資源が多い。また鉱山資源もあり、それに芸術資源も加えると、量、質とも大きな観光資源になる可能性がある。うまくコーディネートしたら、大屋を訪ねる人も増える。大屋に民間的な旅行者や観光事業者を立ち上げ、地元の若者を雇用するとこまでできればおもしろい。（和田）

14 大屋に来たときから不思議に思っていた。森林の町で木彫フォークアートおおやを16年も開催し、木彫家の松田さんたちが活躍しているのに木彫の作品が町内に無い。石であったりブロンズであったりする。野外に木彫のモニュメントがあってもいい。（市川）

15 大屋には、休止している公共施設等も沢山あり、考えて活用すれば、もっと面白いことができる。（秋山）

15 この町に来て、町の人たちは木彫家を職業として思っていないことに驚いた。（市川）

16 富山県・井波では、木彫師を芸術家とは言わない。もっと違ったいい方がないか。例

えば、作りもの師とか。全国各地に「芸術村」という名称の村はたくさんある。「ものづくり村」とか（市川）

17 次回は、ギャラリー経営者、木彫フォーアート友の会などもメンバーも加えて検討しよう（児島）

キーワード

みんなで、楽しみながら、身近かに、開かれた組織、開かれた場所で、芸術という言葉

【資料4】

木彫フォーアートおおや神戸展企画書（案）

2010.1.15

養父市大屋地域局

1 趣旨

養父市では、平成6年から木を素材とした「公募展木彫フォーアート・おおや」を毎年開催している。全国各地から木彫作品が集まり、今では全国的にも知られる展覧会に育

ってきた。グランプリなどの優秀作品は市が買い上げ、現在、木彫95点を養父市立木彫展

示館に所有するに至った。

養父市では、芸術資源（人・モノ・情報）が多く集積している大屋地域を「芸術村」として位置づけ、新たなまちづくりへの挑戦をはじめ。芸術の持つ魅力と感動を多くの人

に体験していただき、魅力ある地域づくりを目指す。

その取り組みのひとつとして、平成22年夏に木彫フォーアートおおやの作品展を兵庫

県と連携し、兵庫県立美術館で開催する。「フォーアート」という新たなジャンルの芸術

の発信と「木彫フォーアートのまち・但馬 養父市」のPRを行う。

記

2 会期 平成22年7月30日（日）～8月15日（日）14日間 仮予約中

3 会場 兵庫県立美術館 ギャラリー棟

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL076-262-0901

4 内容 木彫フォークアートおおやの入賞作品 グランプリ他 約40~50 点を兵庫県立美術館へ展示する。

5 入場料 無料

6 搬入・搬出 (1)期日 搬入 平成22 年7月29 日(土)

搬出 平成22 年8月16 日(月)

(2)方法 搬入搬出は、市職員及び木彫展示館スタッフ、作品取り扱い知識のあるスタッフで実施する。

7 輸送 美術品取り扱い経験のある業者に依頼し、輸送する。

8 展示・撤去 搬入・搬出時に兵庫県立美術館学芸員の指導により市職員及び木彫展示館スタッフ等、作品取り扱い知識のあるスタッフで実施する。

9 受付・監視 (1)会期中の受付・作品監視は、ボランティアスタッフの協力を得て、実施する。

(2)期間中、常時3名のスタッフを配置し、うち1名は主催者、2名は現地のボランティアスタッフを確保する。

(3)ボランティアスタッフには、交通費、昼食代程度の費用を支払う。

10 広報・宣伝 印刷物 DMハガキ5,000 枚、ポスター300 枚を製作し、PRする。兵庫県広報紙、公募展ガイド等への掲載等

11 保険 作品輸送中及び展示期間中は損害保険に加入する。

12 事業費 約90 万円 (財源：養父市、県補助金、広告料等)

補助金...但馬県民局地域づくり活動応援事業(応募型)他

13 主催 大屋の芸術村推進協議会(仮称)、養父市

大屋の芸術村推進協議会は、芸術家、木彫展示館、ギャラリー関係者、芸術文化活動団体等により構成する。(平成22 年3月発足予定)

事務局

養父市役所大屋地域局(担当：和田)

兵庫県養父市大屋町大屋市場 20-1 TEL079-669-0120__

【資料5】

養父市芸術村文化構想アドバイザー派遣 報告書

平成 22 年 3 月

財団法人日本地域開発センター

．概要

財団法人日本地域開発センターは、財団法人都市化研究公室より兵庫県養父市大屋芸術文化村構想に関して、地域振興アドバイザーの派遣を受託した。派遣は平成 22 年 2 月 11 日から 13 日にかけて行ったが、本冊はその報告書である。

当センターが派遣したアドバイザーは、日本地域開発センター北川主任研究員、(有)五十嵐ソーシャル・マーケティング代表取締役五十嵐宜子、鳥取大学地域学部大学院修士課程小谷康和の 3 名であるが、その他、光多長温鳥取大学特任教授、及び国土交通省都市・地域整備局地方振興課古澤法夫補佐は、本件受託派遣以外の資金で現地で合流してともにアドバイスをを行った。

．養父市の概要

養父市は、平成 16 年（2004）4 月 1 日、兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋町および関宮町の 4 町が合併して成立した。人口は 30,110 人、世帯数 9,299 世帯（平成 12 年国勢調査¹）、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、面積は 422.78km² で、兵庫県の 5.0%、但馬地域の 19.8%を占めている。

市の東部を一級河川円山川が南東から北東の方向に流れ、その支流の八木川に沿って八鹿、関宮地域が大屋川に沿って養父、大屋地域が位置している。西部には県下最高峰の氷ノ山や鉢伏山、八チ高原、若杉高原が、北部には妙見山がそびえるなど、雄大で美しい自然に囲まれている。

交通条件は、京阪神と山陰地方を結ぶ主要な地域幹線道路である国道 9 号が東西に、姫路方面と山陰地方を結ぶ国道 312 号が南北に通っている。南但馬トンネル、琴弾トンネルなど、市内を結ぶ道路整備が進められている。円山川に沿って J R 山陰本線が通っており、八鹿駅及び養父駅から京阪神及び山陰地方への所要時間は、それぞれ約 2 時間である。また、市の北約 10km にある但馬空港から、大阪空港までは約 35 分で結ばれている。現在、北近畿豊岡自動車道の整備計画の事業化が決定され、地域内にインターチェンジの設置が予定されている。

江戸時代には、円山川沿いの地域は、山陰街道や舟運など但馬地域の交通の要衝として、生糸商が栄えるとともに、近畿諸国における但馬牛取引の拠点となり、明治期に入ると、紡績工場なども進出して商工業が発展した。平安時代に歴史を遡る明延鉱山は、スズの産出量日本一を誇っていたが、海外産との競合により昭和 62 年に閉山した。また、氷ノ山・鉢伏などの一帯は、古くから拓かれたスキー場があり、近年では、京阪神や中国四国圏におけるスキー・スノーボードなどアウトドアスポーツや合宿活動の拠点となっている。

兵庫県が建設・管理・運営している長寿の郷があるとともに、旧八鹿町では、天女の湯、但馬蔵道の駅を PFI 方式で整備、運営する等、行政の効率化にも取り組んでいる。

¹ 現在は、28,000 人程度に減少している。

・養父大屋芸術文化村構想

1. 概要

養父市大屋町は養父市の南西に位置し、豊かな自然環境、景観、独自の文化がある。この大屋地域に、芸術家が住みつき、芸術文化地域を形成している。これを発展的に地域振



興に結び付けることを目指すのが「大屋芸術文化村構想」である。

即ち、県北部の山間で生まれた木彫芸術「木彫フォークアート」を核に外来の芸術家の受け皿となり、また関西地域をターゲットに芸術を体験する人を受け入れることを目指すものである。

大屋地域には、木彫、陶芸、絵画、書、木工、家具等の芸術家が住みついており、一つの芸術文化地域を形成している。そして、1994年から木彫をベースとした「木彫フォークアート・おおや」を開催し、全国各地から木彫作品が集まり、優秀作品は市が買い取りを行っている、かなりの財産となっている。現在、95点を養父市木彫展示館に収蔵、公開し



ている。

1996年から大屋地域に住んでいる作家たちが自主的に合同で「うちげえのアート・おおや」を開催している。毎年、7月上旬に大屋町の3階建ての養蚕住宅や、木彫展示館等に訊



400 点の作品を展示、公開している。また、近年、空き家だった 3 階建てを改造したギャラリーや、旧郵便局の局舎の一部を改装したギャラリーが相次いでオープンしている。

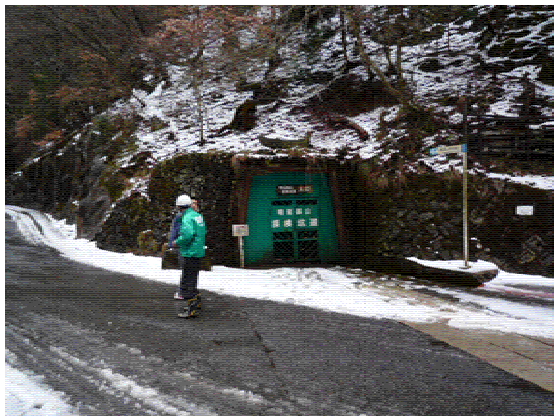
この大屋芸術文化村のリーダーともなっているのが、木彫家の松田一戯郎夫妻、弟子の木彫家市川祐之氏、画家の田中今子氏、それに建築家の河邊夫妻氏等である。町内は、木彫作品を象った石造の作品があちこ



ちにあり、芸術文化の雰囲気醸し出している。

更には、画家、書道家、陶芸家等がそれぞれの活動を経て、自立しつつある。

更に、大屋地域には、わが国屈指のスズ（錫）生産で知られた明延鉦山廃坑跡がある。明延鉦山は、約 1260 年前の天平年間に開山していたとされ、奈良・東大寺の大仏鑄造にも明延鉦山廣出の銅が献上されたという言い伝えもある。明治政府の誕生とともに官営となり、明治 29 年(1896 年)に三菱合資会社に払い下げら、明治 42 年(1909 年) にスズ鉦を発



見し、「日本一のスズの鉱山」として発展した。大正 8 年(1919 年)、神子畑に新選鉱場を建設、昭和 27 年(1952 年)三菱金属鉱業株式会社に社名変更、昭和 51 年(1976 年)明延鉱業株式会社として独立、主に、銅、亜鉛、スズ等を算出した。しかし、円高と金属価格の下落により、地下に多くの鉱量を残しながら昭和 62 年(1987 年)に閉山したものである。その鉱山跡は現在、数名のボランティアのガイドにより訪問客を案内し、教育、観光に資している。



また、ここで、1 円電車が再生、運営される計画がある。即ち、鉱山で産出された鉱石は牛車や馬車索道で精錬所に運ばれていたが、鉱山の近代化と共に 1929 年(昭和 4 年)明延神子畑間の軌道が完成し、鉄道での輸送が開始されたが、明延粗砕場と神子畑選鉱場の約 6km 間には、鉱石輸送電車と客車が定時運行され、鉱石を運んでいた。客車は運賃が 1 円であったことから「1 円電車」の愛称で呼ばれ、鉱山従業員及び家族の通勤、通学、買い物の足として利用されていた。閉山時には架線式機関車 10 台、蓄電池機関車 80 台が稼働しており、軌間は 762mm と 500mm の 2 種類であった。

10t 架線式電気機関車、2t 蓄電池機関車、3t 蓄電池機関車、5t グランビー鉱車、1t 鉱車、くろがね号、しろがね号、あかがね号、パトロール車が、明延で保存・展示されている。



2. これまで及び現在の活動状況

大屋芸術村については、これまで有志の方々と養父市役所大屋支所の和田氏を中心として、地道な活動を行ってきた。これらを踏まえて、平成 21 年頃より、養父市としても大屋芸術村を地域振興の一つと位置付け積極的活動に転じている。

即ち、平成 21 年 10 月 4 日に、木彫フォークアートおおや授賞式で広瀬養父市長から大屋地域を芸術をテーマにしたまちづくりを進めたい旨の発表が行われた。これを受けて、10 月 7 日に、大屋地域政策研究会議が開かれ、芸術をテーマにしたまちづくりについて大屋地域局内部で検討・意見交換が行われた。そして、10 月 16 日に大屋地域局において、「芸術村構想」の素案づくりが行われ、10 月 21 日に鳥取大学光多教授に「芸術村構想」(素案)等について概要説明と協力依頼を行った。また、10 月 30 日に但馬県民局長に「芸術村構想」(素案)について概要説明を行っている。

これらを受けて、11 月 16 日に鳥取大学・光多教授らが現地調査を行い、作家工房、木彫

展示館、分散ギャラリー等の視察を行い、意見交換会を行った。これらの意見を踏まえて、地域有志を中心として、12月22日及び平成22年1月12日に意見交換会²を、平成22年1月21日～26日に、大屋町内の芸術家や関係者等に説明と協力依頼を行った。そして、1月25日に芸術体験ツアーの打ち合わせ、木彫体験合宿等について具体的な意見交換会を行い、2月4日に大屋の芸術村構想説明会を大屋市民センターで開催し、大屋の芸術村の趣旨説明、先進事例の紹介、大屋の芸術村推進協議会設立準備会(仮称)の説明と参加呼びかけを行った。そして、「大屋の芸術村」が目指すものとして、

² その時の、主な意見は次の通り。

1. 不景気で芸術家は大変な時代になっている。大きな作品は売れなくなった。彫刻を学ぶ学生も減ってきている。アートは敷居が高いと思われている。もっと身近に感じるようにしていかなければ広がらない。
2. 大きな作品を製作・展示するスペースが欲しい。廃校を活用し、芸術家の創作の場となる貸しアトリエを考えてはどうか。
3. 商工会産業クラスター研究会では、養父市の新たな観光資源として大屋の芸術に関心と期待を持っている。アクティブシニアを対象にした「アートにふれる旅 in 大屋」といった2泊3日の滞在型のツアーを商品化できないか。このなかには県立大学も参画している。合わせて魅力ある食事のメニュー開発も必要。
4. 木彫教室をしても短期間で木彫づくりを覚えるのは大変。木工ろくろなどで製作する方法もある。
5. 事業には投資のリスクがつきものだ。公的なバックアップがあれば助かる。
6. 「芸術村構想」の推進は芸術家だけでなく、関心のある一般市民も参加する取り組みにすべきだ。各種団体の代表者では動かない。
7. 岡山県真庭市の勝山のまちづくりのように楽しみながら取り組みこと。活動の輪を広げ、町ぐるみで盛り上げようにならう。誰でも参加できる。開かれた芸術村をすすめるべきだ。彫刻や絵画等だけでなく、音楽や子ども達も楽しめるような村(地域)にしていきたい。
8. 大屋には自然が豊富で古い民家も多い。大屋に行ってみたら「得」をするような場所にしたい。
9. 松田一戯さんの大きな作品をちゃんと展示する場所が欲しい。松田さんらの作品であればあれば、多くに人を呼び込むことができる。大屋全体を芸術村にするより、木彫展示館やギャラリー、3階建て養蚕住宅のある大杉地区を中心に取り組んだらどうか。
10. 大屋にはミズバショウ、樽見の大桜、天滝、横行溪谷、氷ノ山といった四季を通じて楽しめる自然資源が多い。また鉱山資源もあり、それに芸術資源も加えると、量、質とも大きな観光資源になる可能性がある。うまくコーディネートしたら、大屋を訪ねる人も増える。大屋に民間的な旅行業者や観光事業者を立ち上げ、地元の若者を雇用するところまでできればおもしろい。
11. 森林の町で木彫フォークアートおおやを16年も開催し、木彫家の松田さんたちが活躍しているのに木彫の作品が町内にない。石であったりブロンズであったりする。野外に木彫のモニュメントがあってもいい。休止している公共施設等も沢山あり、考えて活用すれば、もっと面白いことができる。
12. 富山県・井波では、木彫師を芸術家とは言わない。もっと違ったいい方がないか。例えば、作りもの師とか。全国各地に「芸術村」という名称の村はたくさんある。「ものづくり村」とか。

- (1)人々の暮らしと芸術が融和したまちをつくる。
- (2)地域の自然や景観、農林産物などのまちの資源を見直し、さらに魅力ある資源として磨き、資源を活かす。
- (3)芸術を取り入れたツーリズムの創造や芸術家の移住など促進し、都市と農山村との交流を盛んにして、にぎわうまちをつくる。
- (4)芸術村の「核」(機能・空間・情報)となる場をつくることを確認した。基本コンセプトを、「みんなで、楽しみながら、身近に、開かれた組織、開かれた場所で、芸術」という方向と考えた。

これらを踏まえて、平成 22 年 9 月～10 月におおやホールで、第 17 回木彫フォークアートおおやを、平成 22 年 8 月に兵庫県立美術館で木彫フォークアートおおや神戸展を行う計画を立てた。



3. 今回のアドバイザーの意見

今回、アドバイザーを派遣して、現地視察、芸術家の方々との意見交換、周辺観光地の視察等を行った。その上で、大屋芸術文化村の進め方について次のような意見を提出した。

明延鉦山は中々素晴らしい。特に、間近で手に触れることができるのが良い。ガイドの方のレベルも高い。これと芸術文化村とを一体として売り物にすべきである。また、養父の他の資源とも一体として売っていくことが必要。

行政の関与の仕方は、金を出すよりは、人を出すことで支援する方向である。金よりも人を支援材料としていくことを考えるべきである。

HP の充実を図っていくべき(調べてみたが、養父市の HP でも大屋芸術文化村のアピールは大きくない)。これらを通じて、人に来てもらう体制作りを考えるべきである。そのためには、外部とのネットワーク作りが必要であろう。こういう分野における様々な交流組織があるので、これらと連携を図ることを考えるべき。

芸術家の卵に来てもらう仕組みを考えるべき。例えば、当初、1 年間は行政に席を置くことで雇用補助を行うことも考えるべきであろう。

販売拠点を構築すべきであろう。外部に売れる作品を作るためのアドバイザーに指導してもらいたい。

地域内インフラを整備すべき。例えば、屋外アート(木彫が点在する地域を作る)、フォークアート通りを作る、等である。

関西等から 1 カ月単位で木彫体験工房を作ることを具体化すべき。関西とは格好の距離

であろう。こういうのはHPと口コミであろう。

アメリカのフォークアートとはやや異なる概念か。アメリカのフォークアートはもっとプリミティブである。ただ、一番の問題は少数の個人に頼っていて地域全体に拡大していないことである。

地域全体にお金が落ちる仕組みを考えるべき。外に向けてのブランディングを考える必要がある。松田さんのオドロオドロしい木彫と、奥さんの柔らかい雰囲気、市川さんのややユーモラスな雰囲気等それぞれの持ち味があるが、更に幅を広げるべき。また、もっと売れるものを考えるべき、即ち、商品化を考えるべき。誰に売っていくのかを考えるべき。大量生産的に売っていくことも考えて良いのではないか。カップ等も需要があると考えられる。また、「定番」作品を考える。松田さんはシンボリックな位置づけであろうが、新規参入者へのアドバイスの仕組みを考えるべきであろう。

しっかりしたギャラリーを作るべき。分散ギャラリーでは不十分。

大屋に来た人に、大屋で食べるもの（お茶菓子とお茶でも可）を考えるべき。

以上をまとめると、要するに、もっと売れるものを作る仕組みを作るようにということであろう。早急に、体制整備が求められる。



兵庫県養父市大屋芸術文化村構想地域振興アドバイス出張日程

市町村名	兵庫県養父市	日 程	平成 22 年 2 月 11 日 ~ 2 月 13 日
出席アドバイザー	鳥取大学 光多、小谷 北川、五十嵐、 国交省 古澤補佐		
現地側出席者	養父市 広瀬市長、児島政策管理部長、和田大屋地域局参事		
スケジュール	<p>2月11日(木)</p> <p>【北川、五十嵐、古澤】</p> <p>11:50 東京駅発 (JR のぞみ 111 号)</p> <p>14:11 京都駅着</p> <p>14:24 京都駅発 (JR たんば 3 号)</p> <p>15:46 福知山駅着</p> <p>15:48 福知山駅発</p> <p>16:25 八鹿着 (出迎え)</p> <p>【光多、小谷】</p> <p>11:37 鳥取大学前</p> <p>11:47 鳥取駅着</p> <p>12:19 鳥取駅発</p> <p>13:04 浜坂駅着</p> <p>13:30 浜坂駅発</p> <p>14:45 八鹿駅着</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田氏迎え (養父市役所大屋地域局参事) (養父市八鹿町八鹿 1675 電話 079-662-3161) ・養父市役所にて、大屋芸術文化村構想に関する概要説明・事前意見交換 (宿泊 県立但馬長寿の郷 079-662-8456) 		

2月12日(金)

9:00 但馬長寿の郷発

9:00～12:00 八鹿～大屋支所、大屋町、木彫家数軒訪問。

12:00～13:00 昼食

13:00～17:00 明野鉦山跡、木彫博物館、画家訪問、養蚕家跡地視察。

18:00～22:00 意見交換会

(養父市 広瀬市長、児島政策管理部長、木彫、画家関係者等との会議)

(宿泊 農村公園ペンション翡翠

養父市大屋町加保 582 電話 079-669-1822)

2月13日(土)

9:00～10:30 大屋周辺視察(養父蚕の郷、八鹿道の駅他)

【北川、五十嵐、古澤】

10:58 八鹿駅発(JRきのさき4号)

13:03 京都駅着

13:16 京都駅発(JRのぞみ22号)

15:33 東京駅着

【光多、小谷】

11:28 八鹿駅発

11:56 城崎駅着

11:58 城崎駅発

12:58 浜坂駅着

13:12 浜坂駅発

13:57 鳥取駅着

14:02 鳥取駅発

14:08 鳥取大学前着

【資料6】

おおやアート村協議会規約（案）

（名称）

第1条 この会は、「おおやアート村協議会」（以下「協議会」という。）と称する。

（目的）

第2条 協議会は、芸術資源（人・モノ・行事・情報）が集積する養父市大屋地域を魅力あふれるまちにするため、市民、行政や関係機関等が協働して、まちづくり構想実現に向けての具体的な方策を検討し、地域のにぎわいづくりを推進することを目的とする。

（事業）

第3条 協議会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 芸術や地域資源を活かしたまちづくり構想に関する調査・研究に関すること
- (2) まちづくり構想の実現化に向けた活動の企画・実施に関すること
- (3) まちづくりの推進に関する広報に関すること
- (4) その他目的を達成するために必要な事項に関すること

（組織）

第4条 協議会は、協議会の目的に賛同する個人や各種団体及び行政等で組織する。

（役員）

第5条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 会計 1名
- (5) 運営委員 若干名
- (6) 会計監査 2名

2 会長、会計監査は総会において選出する。

3 副会長、事務局長、会計、運営委員は会長が指名し、総会の承認を得る。

4 役員任期は2年とする。

5 役員は任期満了後であっても、後任者が就任するまでは、なお、その職務を行うものとする。

（役員職務）

第6条 会長は、事業を総括し、協議会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指定した順位によって、その職務を代理する。

3 事務局長は、運営委員会の下で協議会の事業を企画調整し、連絡、広報等を管理する。

4 会計は、協議会の出納事務を処理し、会計に必要な書類を管理する。

5 運営委員は、運営委員会を通して、協議会の事業の円滑な遂行にあたる。

5 会計監査は、協議会の会計を監査する。

(総会)

第7条 総会は、会長がこれを招集する。

2 総会の議長は、会長又は会長があらかじめ指名した者がつとめる。

3 総会は、次の事項を協議し、議決する。

(1)協議会の規約の改廃に関すること

(2)予算及び決算に関すること

(3)事業計画の決定及び事業報告の承認に関すること

(4)その他重要な事項に関すること

4 協議会の議事は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第8条 協議会に運営委員会を置く。

2 運営委員会は、第5条の(1)から(5)までの役員をもって構成する。

3 運営委員会は、必要に応じて、会長が招集する。

4 運営委員会は、総会で決定した事業の運営管理をする。

5 会長は運営委員会に専門知識を有する者を出席させることができる。

(会計年度)

第9条 協議会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日までとする。

(経費)

第10条 協議会の経費は、会費、委託金、補助金、その他の収入をもってあてる。

2 協議会の会計に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(事務局)

第11条 本協議会の事務局は、養父市大屋地域局内に置く。

(その他)

第12条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この規約は、平成 年 月 日から施行する。

おおやアート村協議会設立準備会委員名簿

応募市民

氏名	住所	備考(職業等)
清都 一成	養父市大屋町大屋市場 111	僧侶・木彫同好会
河辺 喜代美	養父市大屋町大杉 1062	分散ギャラリー「養蚕農家」館長
戸川 勝義	養父市大屋町門野 55-3	キャンプ場経営、養父市観光協会大屋支部長
近藤 研秀	養父市大屋町筏 237	教員
中尾 健二	養父市大屋町大杉 935	会社員
阪根 美智子	養父市大屋町おうみ 1475-32	無職
松田 一戯	養父市大屋町和田 56-1	木彫作家
田中 今子	養父市大屋町大屋市場 192	画家

大屋地域局

氏名	住所	備考
秋山 薫	養父市大屋町大屋市場 20-1	大屋地域局長

長瀬 邦彦	養父市大屋町大屋市場 20-1	地域づくり担当参事
和田 祐之	養父市大屋町大屋市場 20-1	副課長

業務報告書

平成 22 年 3 月 10 日

副課長 和田祐之

平成 22 年度から具体的に「芸術村構想」を市民と行政が協働して推進するため、趣旨に賛同する市民とともに推進組織の設立準備会を開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 と き 平成 22 年 3 月 9 日 (火) 午後 7 時 30 分 ~ 9 時 30 分

2 と ころ 大屋市民センター 2 階 第 2 会議室

3 参加者 市 民) 清都一成 (木彫同好会) 松田一戯 (木彫家) 戸川勝義 (観光協会) 阪根美智子 (剪画講師) 田中今子 (画家・ギャラリーブルーバード) 河辺喜代美 (分散ギャラリー)

2 月 4 日の「芸術村構想」趣旨説明会の後、設立準備会の趣旨に賛同した方々に集まっていただきました。欠席者は 2 名。

地域局) 秋山地域局長、長瀬地域づくり担当参事、和田副課長

4 内 容 設立準備会の趣旨、協議会規約 (案) を大屋地域局から説明し、協議・検討しました。その結果、協議会規約 (案) について、次のとおり修正が行われました。また、今後のスケジュール等についても確認しました。

(1) 協議会の規約について

協議会の名称は「おおやアート村協議会」とする。

意見) あえて「芸術」というと敷居が高く、一般の人は近寄りやすいイメージ。芸術家だけで協議会を組織する感がある。

役員の任期は 2 年とする。

意見) ある団体で会長を長くして、弊害が起きた例がある。最大 2 年で変わるほうが、組織は活性化していい。

なお、協議会規約は別紙のとおり

(2) 組織づくりについて

設立趣意書で大屋地域内の関係団体、市民に協議会参加を呼びかける。
呼びかけは「おやアート村協議会設立準備会」とし、大屋地域局が窓口となる。

参加の呼びかけ方法は、団体は郵送、市民向けには、新聞折り込み

募集開始 3月16日～31日まで 趣旨書作成は田中今子さん担当

参加申込者も含めた第2回の設立準備会を開催する。

期日 4月6日(火)午後7時30分～

場所 大屋市民センター

内容 役員の選考方法について

事業計画案。予算案の検討について

設立総会の日程について

3月中に日程を取りたかったが、参加者の日程が合わず、最短で4月6日になりました。

以上

【資料 7】

まちをアートで楽しく

～おおやのアート村協議会メンバー募集～

あなたは初めて美術館を訪れたとき、興奮と驚きを感じませんでしたか。美術、音楽、ダンス、演劇などの精神活動は、人間として生きていくうえで大切なものです。また、芸術には人が何かを考える“きっかけ”を与えてくれるといわれています。

大屋には、町内に多くの作家が活動し、全国公募展「木彫フォークアート・おおや」や「うちげえのアートおおや」の開催、空き家を改修したギャラリーのオープンなど、芸術資源（人・行事・情報）が多く集積しています。

この芸術資源と自然資源をマッチさせ、新たなまちづくりとして、様々な取り組みができれば、この大屋がもっと魅力的になると思われます。

この町が再び活気にあふれ、若者たちが活躍することを願い「大屋の芸術村」づくりに参加してみませんか。

この取り組みにご関心のある方は、別紙、参加申込書に必要事項を記入の上、平成 22 年 3 月 31 日までに大屋地域局まちづくりグループへ申込みしてください。

《おおやアート村協議会とは》

芸術資源が集積する養父市大屋地域をもっと魅力あふれるまちにするため、市民、行政や関係機関等が協働して、まちづくり構想実現に向けての具体的な方策を検討し、地域のにぎわいづくりを推進する組織です。

平成 22 年 3 月 16 日

おおやアート村協議会設立準備会

《事務局》養父市役所大屋地域局

〒667-0311 養父市大屋町大屋市場 20- 1

TEL079-669-1094 FAX079-669-1682

大屋の芸術村まちづくり推進協議会

参 加 申 込 書

平成 年 月 日

ふりがな 性 別
氏 名

男 ・ 女
職 業
年 齢 歳
住 所 (〒 -)

連絡先電話番号

メールアドレス

申し込みされた動機は何ですか

あなたがやってみたいことがありますか。あれば記入してください。

現在、活動していることがありましたらご記入ください。

この個人情報は、大屋の芸術村まちづくり推進協議会の入会事務のみに使用します。

【資料 8】

三宅先生「大屋のアート村」現地調査日程（案）

大屋地域局

平成 22 年 6 月 16 日

- 1 と き 平成 22 年 7 月 8 日（木）
- 2 ところ 兵庫県養父市大屋町内
- 3 調査員 三宅 理一 慶応義塾大学教授（国立パリ大学客員教授）
光多 長温 鳥取大学特任教授
小谷 兼和 鳥取大学大学院 地域学研究科

4 日 程

7 月 8 日（木）

- 8：30 鳥取 出発
- 10：00 大屋地域局 着
TEL 079 - 669 - 0120（代）
- 10：00 概要説明
- ・場 所 大屋地域局 2 階大会議室
 - ・説明者 大屋地域局参事 和田 祐之
- 11：00 現地見学
- ・松田 一戯（木彫家・大屋町和田）
 - ・田中 今子（画家・大屋町大屋市場）・ギャラリーブルーバード
- 12：00 昼食 あゆ公園レストラン「プレコグロス」（バイキング）
- 13：00 現地見学
- ・木彫展示館（大屋町大杉）
 - ・分散ギャラリー（河辺喜代美・大屋町大杉）
 - ・ふるさと交流の家「いろり」他 大杉地区養蚕住宅群
- 15：30 現地見学
- 筏地区の養蚕住宅群
 - ・場 所 筏地区内（養蚕住宅 1～2 戸を見学）
 - ・説明者 まちづくり課長 阿部 稔
- 17：30 現地見学

・八鹿高等学校大屋校

(建物の外観を見学：内部見学は予定していません)

17:45 おおや農村公園「ペンション翡翠」 着

(問) 株式会社おおや振興公社

TEL 079 - 669 - 1822

18:00 意見交換会

・場 所 「ペンション翡翠」ロビー

・説明者 大屋地域局参事 和田祐之

19:00 夕食・懇親会

7月9日(金)

9:00頃 おおや農村公園「ペンション翡翠」出発

大屋地区
地域再生拠点等プロジェクト支援事業
〔計画策定〕計画書

平成24年3月

おおやアート村協議会

目 次

I	おおやアート村構想の概要	1
1-1	目的	1
1-2	背景	2
	①これまでの取り組み		
	②大屋在住作家の活動とおおやアート協議会取り組み		
	③大屋の地域資源		
1-3	おおやアート村全体構想	4
	①アート村の中心拠点施設「BIG LABO」とアート村ネットワーク		
	②2つのアート村拠点地区：大杉ビレッジ・明延ビレッジ		
	③自然環境を活用：あるくミュージアム		
	④レトロ建築：レトロミュージアム		
	⑤農作物：たがやすミュージアム		
II	サイン計画		
2-1	サイン計画の考え方	9
2-2	案内サインの構成例～大杉と明延を対象に～	9
III	大杉ビレッジ 「木彫の里－養蚕農家をめぐるみち」		
3-1	大杉ビレッジ 計画のコンセプト	12
3-3	養蚕住宅の活用	13
3-3	木彫展示館及び周辺整備	18
3-4	概算事業費	18
IV	空き家活用の仕組みづくり	20
IV	事業推進方策	23
	〈参考〉		
	地域再生拠点等プロジェクト計画策定事業の取り組みの経過	24

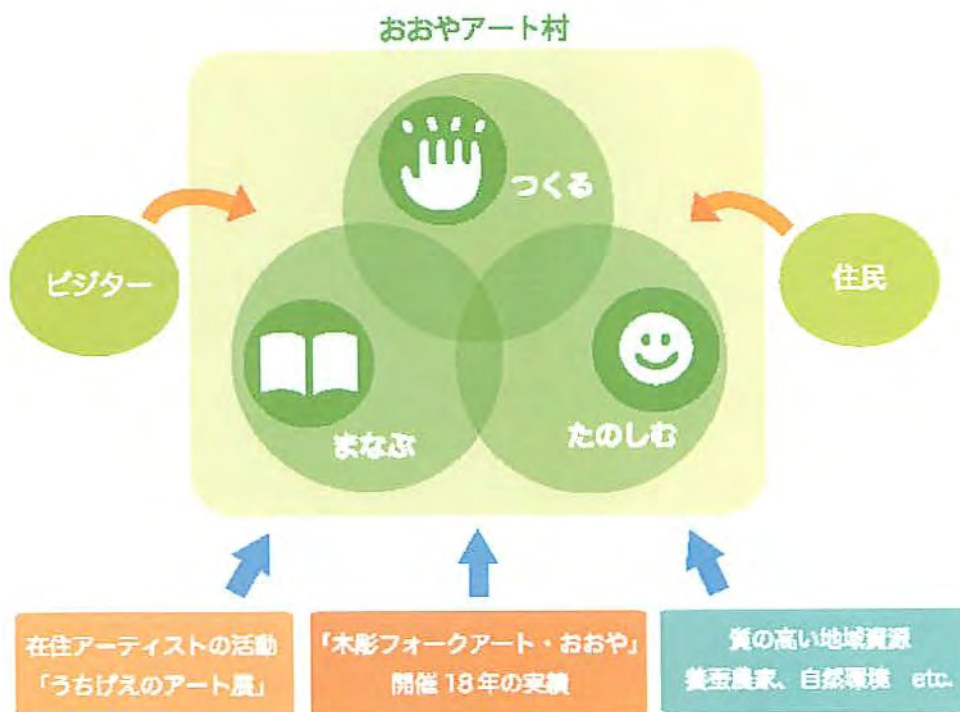
おおやアート村構想

“つくる・まなぶ・たのしむ” アート村

I おおやアート村構想の概要

1-1 目的

養父市大屋町を対象に、まちの歴史、文化、自然といった地域資源を活用し、まち全体をアートで結ぶ仕組みをつくることで、訪問者も住民も、関わる人皆が「つくる」「まなぶ」「たのしむ」ことができる、他にはない「アート村」を計画することを目的とする。



おおやアート村コンセプト図

1-2 背景

① これまでの取り組み

「木彫フォークアート・おおや」

養父市では、平成6年から木を素材とした公募展「木彫フォークアート・おおや」を毎年開催している。日本文化の原点ともいえる木を素材とした私たちの生活に身近で親しみやすい、温もりや安らぎを与えてくれる全国公募の作品展である。

同公募展の木村重信審査委員長は「フォークアートのフォークは「人びと」の意で、フォークソング（民謡）とかフォークロウ（民俗学）とかいったように用いられる。フォークアートは人びとの生活に密着し、その喜怒哀楽を表現する芸術である」と説明している。これまでに18回開催し、今では木彫作家への登竜門として位置づけられ、受賞することでその作家は注目を集めるまでになっている。

優秀作品は市が買い取り、現在では105点の木彫作品が養父市コレクションとして、養父市立木彫展示館に収蔵・一般公開している。この実績を活かして、木彫フォークアートが大屋のアイデンティティとなるような広がりのある計画ができる。



木彫フォークアートおおや（おおやホール）



人気の割烹着のおばちゃん（木彫展示館）

②大屋在住作家の活動とおおやアート協議会取り組み

養父市大屋町には、木彫、木工、陶芸、絵画、書、染織、さをり織りなど多彩な作家が創作活動をしている。平成8年からは町内の作家たちが合同で「うちげえのアートおおや」を毎年、開催している。ふるさと交流の家「いろり」や木彫展示館などにアート作品の展示やワークショップなどを開催し、期間中は多くの美術ファンで集落が賑わう。また、同地区では、平成20年4月に空き家の3階建て養蚕住宅を改造して、アート作品を展示する分散ギャラリー「養蚕農家」が開設するなど、大屋地域には芸術資源（人・モノ・行事・情報）が多く集積してきた。

平成22年5月には、市民と関係団体の有志や行政で「おおやアート村協議会」（清都一成会長、会員30名）が発足。平成22年度に兵庫県のまちなか振興モデル

事業を受けて「おおやアート村推進プラン」の策定や兵庫県立美術館での木彫フォーカアート展、アート体験ワークショップなど開催し、おおやアート村構想の普及啓発の活動をしている。



分散ギャラリー「養蚕農家」（大屋町大杉）



協議会メンバーによる大型木彫製作（地域局前）

③大屋の地域資源

養父市大屋町は、兵庫県北部の但馬地域に位置し、四方を県下一の高峰である氷ノ山をはじめ1,000m級の山々に囲まれた自然豊かな山里である。氷ノ山を水源とする大屋川が町の中心を流れ、支線沿いに集落が形成されている。古くから養蚕業が盛んだったことから、その名残の養蚕住宅の特徴を持つ民家が多数点在している。

大屋地域には、加保坂のミズバショウ（県指定天然記念物）、樽見の大ザクラ（国指定文化財）、天滝（日本の滝100選）、横行溪谷（氷ノ山後山那岐山国定公園）、ブナ原生林などといった県下一級の自然資源や明延鉱山の一円電車、探検坑道などの近代化産業遺産群、大杉ざんざこ踊り、若杉ざんざか踊りといった無形文化財、おおや高原の有機野菜やおおや有機農業の学校の環境創造型農業の取り組みなど、質の高い地域資源が分布している。これらの資源を地域づくりに活用するべきものである。



樹齢約1000年の樽見の大ザクラ（大屋町樽見）



天滝（大屋町筏）

1-3 おおやアート村全体構想

前述した、「木彫オークアート・おおや」の実績や在住アーティストの活動、豊かな地域資源の活用を基礎として、「つくる」「まなぶ」「たのしむ」アート村を計画する。

①アート村の中心拠点施設「BIG LABO」とアート村ネットワーク

おおやアート村「BIG LABO」を中心施設と位置づける。

「BIG LABO」は、おおやアート村の「つくる」「まなぶ」拠点とし、芸術文化に関わるワークショップやイベントを企画し、プロデュースを行う役割を担う。住民と共同で地域資源を活用したアート村ネットワークを構築し、情報発信を行う。

自然・歴史・産業・文化といった大屋の地域資源はかけがえのない宝物であり、多様性と可能性に満ちている。「BIG LABO」を中心に情報発信を行い、これら地域資源をアートと結びつけることで、新しい価値や広がり、つながりをつくり出す。

おおやアート村ネットワークの中に、幾つかのミュージアムプログラムを構築する。このミュージアムプログラムは、特定の地区を対象にしたものと、大屋全体をネットワークするプログラムに分類することができる。



おおやアート村の中心施設「BIG LABO」（大屋町加保）

特定の地区を対象にしたミュージアムプログラムを展開する地区は、大杉地区と明延地区とする。これらの地区にはそれぞれ、養蚕農家群と鉾山遺構という特徴的なものがあり、これらを活かしたアート村拠点地区とする。これらは、2つのアート村拠点地区で「大杉ビレッジ」、「明延ビレッジ」と位置づける。

大屋全体をネットワークするプログラムについては、多様な可能性が考えられる。例えば、大屋の特徴とも言える養蚕農家住宅と蔵や納屋、各地に残っている古い建物を活用するレトロミュージアムプログラムや、自然環境が豊かで、大屋川を中心

<おおやアート村ネットワーク>



氷ノ山



ミズバショウ



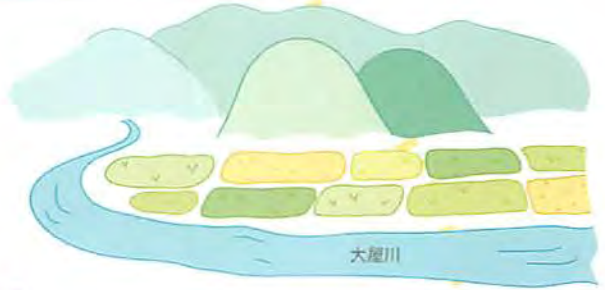
天滝



樽見の大桜

自然環境

「あるくミュージアム」
山、河川、農地、樹木といった豊かな自然を、守り育てる。趣大な自然と風景そのものがアート。地域の自然資源をめぐる仕組みをつくる。



大屋川



レトロ建築

「レトロミュージアム」
下見板張りの洋風建築や土蔵などの歴史あるレトロなかわいい建物はアート村の活動に最適。まちに点在するレトロ建築をBIGLABOの出発所として活用した展示やイベントを行う。



下見板張り洋風建築（保育所跡）



ざんざこ踊り

大杉ビレッジ

アート村拠点地区

「木彫の里ミュージアム」
アート村の拠点地区として、木彫展示館を中心に、養蚕農家群と豊かな自然の織りなす集落全体を活用した、木彫と養蚕農家のミュージアム。



養蚕農家群



はくさい

ほうれんそう



「BIG LABO アート村の中心拠点施設」
自然・歴史・産業・文化といった地域資源はかけがえのない宝物。
BIGLABO を中心に情報発信を行い、これら地域資源をアートと結びつけることで、新しい価値や広がり、つながりをつくり出す。



口大屋の大アベマキ

だいこん

農作物

「たがやすミュージアム」
アートを農業や自然環境と結びつけ、稲樹栽培をはじめとした大屋の農作物のすばらしさを広め、その活動をたのしみ仕組みをつくる。



下見板張り洋風建築（第一浴場跡）

明延ビレッジ

アート村拠点地区

「鉱山の里ミュージアム」
アート村の拠点地区として、歴史ある鉱山遺構を中心とした明延全体を活用したミュージアム。



一元電車

とする谷の景観や山や樹木といった豊かな自然と、それを背景に生産される農作物に関わるプログラムなどを計画する。アート村がプロデュースし、多様な地域資源を活かしたミュージアムプログラムをオープンエンドに展開することができる。

②2つのアート村拠点地区：大杉ビレッジ・明延ビレッジ

<大杉ビレッジ：木彫の里ミュージアム -養蚕農家の活用->

- (1)アート村の拠点地区として、大杉地区の木彫展示館を中心に養蚕農家群と豊かな自然の織りなす集落全体を活用する。
- (2)集落内に点在する養蚕農家は空き家が増えつつあるが、特徴的な大屋の風景をつくっている重要な地域資源である。
- (3)空き家の活用方法の検討：木彫フォークアートの展示・収蔵スペースとしての活用、アーティストの住まいとして活用、住民の憩いの場として活用などアート村がアーティストと空き家所有者との仲介を務め、アートスペースや工房としての利用の仕組みをつくることを中心にし、これを軸にして大屋全体の空き家活用の仕組みづくりへ展開する。
- (4)木彫作品の展示やアートスペースやカフェとして活用する養蚕民家をめぐりみちを計画することで、大杉全体をミュージアムとして位置づける。



空き家の3階建て養蚕住宅（大屋町大杉）



養蚕住宅の面影が残る町並み（大屋町大杉）

<明延ビレッジ：鉱山の里ミュージアム -鉱山遺構の活用->

- (1)アート村の拠点地区として、明延地区に残る鉱山坑道、一円電車、第一浴場、鉱山社宅跡などの鉱山遺構を活用する。
- (2)鉱山遺構をアートスペースとしても活用の仕組みづくりを行う。
- (3)ワークショップによるリノベーションなど、いつもなにか工事中のような、何か作っているところとしてイメージする。

- (4)あけのべ自然学校との連携し、大学等の高等教育機関のワークショップやゼミナールの場所としての利用の仕組みをつくる（アーティストの卵のための場所（スタジオ）づくり、など）。



募金活動で復活した一円電車（大屋町明延）



国の近代化産業遺産「探検坑道」（大屋町明延）

③自然環境を活用：“あるくミュージアム”

山、川、田畑、里山などといった豊かな自然を守り育てる。大屋の雄大な自然と風景そのものがアートであり、地域の自然資源をめぐる仕組みをつくる。

アーティストが加わり、ディレクションを行う（“あるくミュージアム”づくりのワークショップの展開など）



町は知らない資源が沢山あります（大屋町加保）



山里の大屋（ペンション翡翠から）

④レトロ建築：“レトロミュージアム”

大屋の特徴とも言える養蚕農家住宅と蔵や納屋などの付属屋があり、これらが美しい大屋の集落景観をつくり出している。また、旧保育園や公民館などとして建てられ、現在も各地に残っている下見板張り洋風建築があげられる。これらの建物を活用することは、どこにでもあつような新しい施設を計画するよりも、大屋にしか

ない個性をさらに発展させることにつながり、これら価値のあるストックを再生し、活用していくことは大屋アート村の特徴となっていく。

下見板張りの洋風建築や土蔵などの歴史あるレトロなかわいい建物はアート村の活動に最適である。まちに点在するレトロ建築を「BIG LABO」の出張所として活用した展示やイベントを行う（コンバージョンワークショップや、ギャラリーやイベントの展開など）



板張りのレトロな旧保育所（大屋町横行）



おもむきのある自転車屋（大屋町蔵垣）

⑤農作物：“たがやすミュージアム”

アートを農業や自然環境と結びつけ、有機栽培をはじめとした大屋の農作物のすばらしさを広め、その活動をたのしむ仕組みをつくる。

アーティストによる、ラベルデザインなどによる販売につなげるための大屋野菜のブランディング計画を展開する（農地を活用したアート、料理家による試食会、農園レストランプログラムなど）。



大屋高原の有機野菜団地（大屋町夏梅）



おおや有機農業の学校実習作業（大屋町大屋市場）

II サイン計画

2-1 サイン計画の考え方

サイン計画により、上述したアート村ネットワークのビジュアルアイデンティティ（イメージを強く印象づける事）を確立させることを意図する。

広域なエリアにネットワークにより一体感をもたらし、案内サインや場所の明確化、そこで行われるプログラムの情報発信といった役割を担い、アート村をわかりやすく案内し、理解を助け、活動をスムーズに行えるようする。

2-2 案内サインの構成例 ～大杉と明延を対象に～

まず、大杉ヴィレッジと明延ヴィレッジでの適用を想定し、案内サイン案を提示する。

- 「大杉 VILLAGE」「明延 VILLAGE」をビジュアル化します（メインビジュアル）



(大杉ごんざこ祭りモチーフ)



(明延一円電車モチーフ)

- それぞれの VILLAGE には、いくつかの施設があります



- それぞれの施設を色分けし、ビジュアル化します



● 目的別にわかりやすくシンプルなピクトグラムにします



● ピクトグラムとの組み合わせ例



● 案内サインの展開例（大杉地区）



案内サイン
(地区の入り口に設置)



誘導サイン
(分かれ道に設置)



解説サイン
(目的地の入り口前に設置)



暖簾
(施設の入り口)

Ⅲ 大杉ビレッジ 「木彫の里—養蚕農家をめぐるみち」

3-1 大杉ビレッジ 計画のコンセプト

木彫展示館、ふるさと交流の家「いろり」、分散ギャラリー「養蚕農家」を中心に大杉地区に点在する養蚕農家を見ながら、集落をぐるりと一周できる道に沿ったミュージアムプログラムを計画する。木彫展示館を起点に大杉地区の養蚕農家をめぐりながら、木彫作品を見たり、買い物をしたり、小さなカフェに寄ったりしながら集落を散策できる計画とする。

- ・産直ショップのオープン（地元で取れた野菜の販売）
- ・寄り合いカフェのオープン（地元の人たちもちょっと寄っておしゃべり）



〈アート村大杉ビレッジコンセプト図〉



桑畑の再生

大 杉

養蚕農家の保全・養蚕に関する展示
・木彫の展示



養蚕農家の保全・木彫の展示

蔵の活用
木彫の展示・収

二宮神社
(ざんざご羅りの保存)



養蚕農家の保全・木彫の展示・農作物の販売



木彫展示館ANNEX
養蚕農家の保全・cafe・木彫の展示・販売



ふるさと交流の家「いろり」



分散ギャラリー



有機農業の体験

広がり

大蔵川・聖山・集落
の美しい風景

農地の活用

養蚕農家の保全・木彫の展

農作物の販

農地の活用

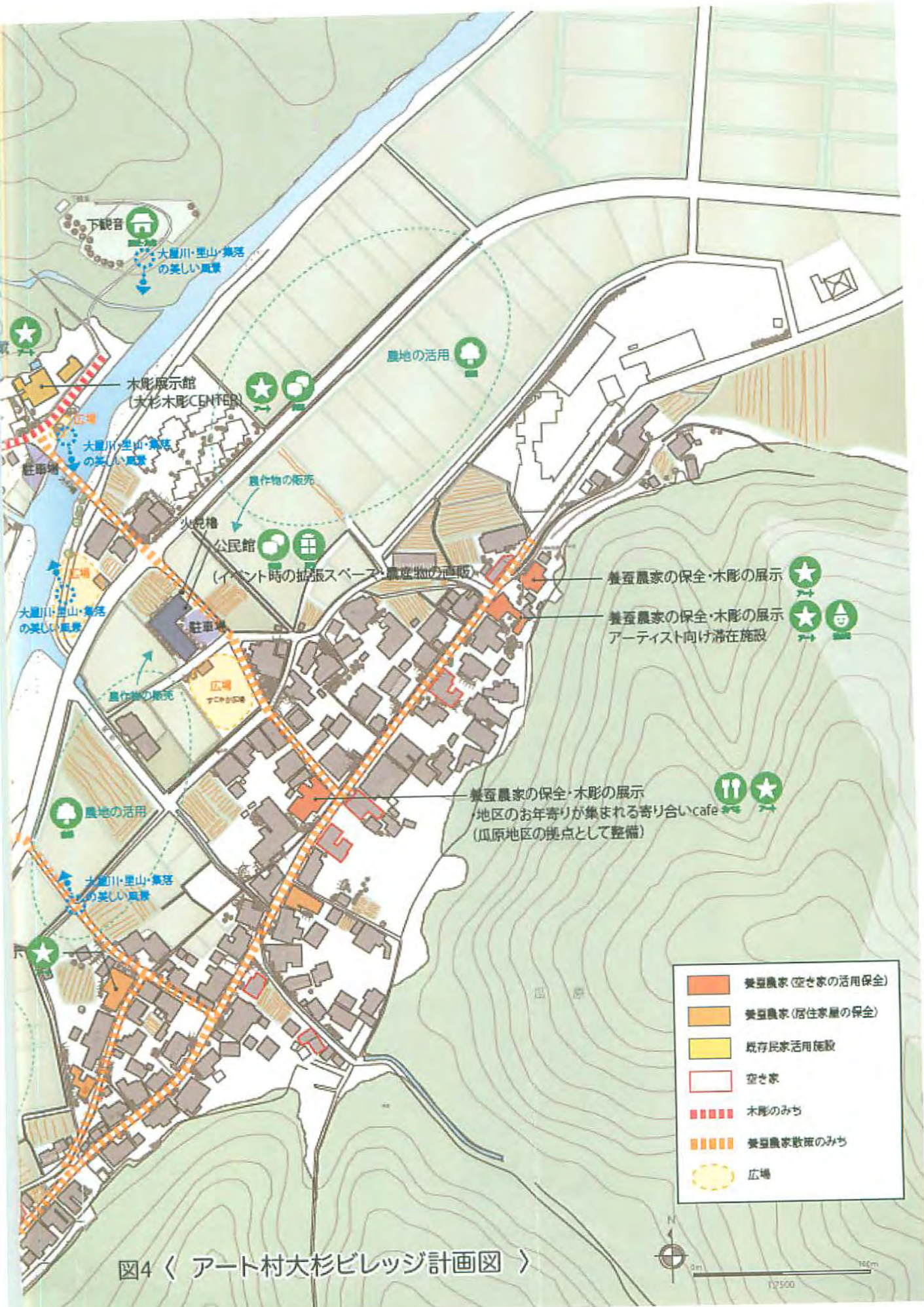


図4 < アート村大杉ビレッジ計画図 >

3-2 養蚕住宅の活用

大屋の養蚕農家は、このまま保存に向けての取り組みをしなければ、50年後には一軒も無くなってしまおうといわれている。アート村が大杉を拠点にした養蚕農家活用のプログラムを展開し、大屋全体の養蚕農家の活用のネットワークづくりを行う事が必要である。

空き家となっている養蚕農家を対象に木彫フォークアート作品の展示や収蔵、アートスペースやカフェへ、アーティストの住まいや工房への利用を展開する。

<木彫の里の養蚕農家活用プログラム>

ステップ1：空き家活用のトライアル

空き家となっている養蚕農家で、緊急に対策を講じないと壊されてしまいそうなものを対象に、費用がかからず、すぐにできる方法で活用のトライアルを行う。

- ・掃除ワークショップ
- ・「うちげえのアート展」でインスタレーション等のアートイベントの試み
- ・イベントに合わせたカフェの試み

(例) 空き家養蚕農家を活用して1階の座敷部分を利用したアートイベントの開催

ステップ2：空き家の定期的利用の試み

ステップ1で活用した養蚕農家などの損傷の激しい部分や修繕を必要とする部分について、最小限の費用で修理を行い、定期的な活動につなげる。また、不足する収蔵庫や展示スペースとして空き家を活用して、木彫作品の収蔵庫、ギャラリーにコンバージョンの方向性の検討を行う。

ステップ3：改修計画

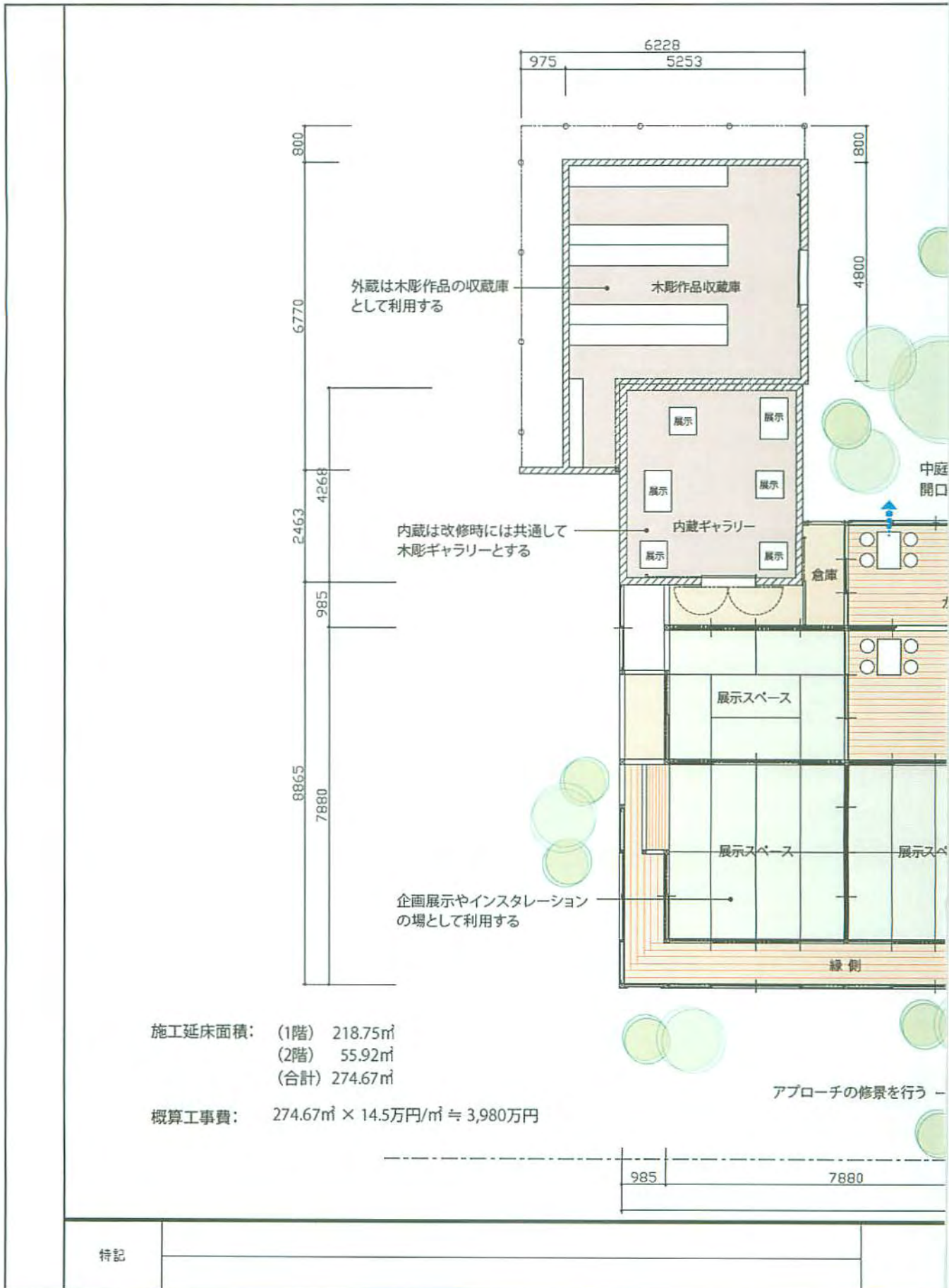
アートスペースとして活用できるように改修計画を行う。また、大杉地区の木彫展示館アネックス（別館）としての利用を検討する。

ステップ4：アート村養蚕農家活用プロジェクトの仕組みづくり

アート村プロジェクトにより、アーティスト、学校団体などの利用希望者と空き家所有者との仲介を行う。

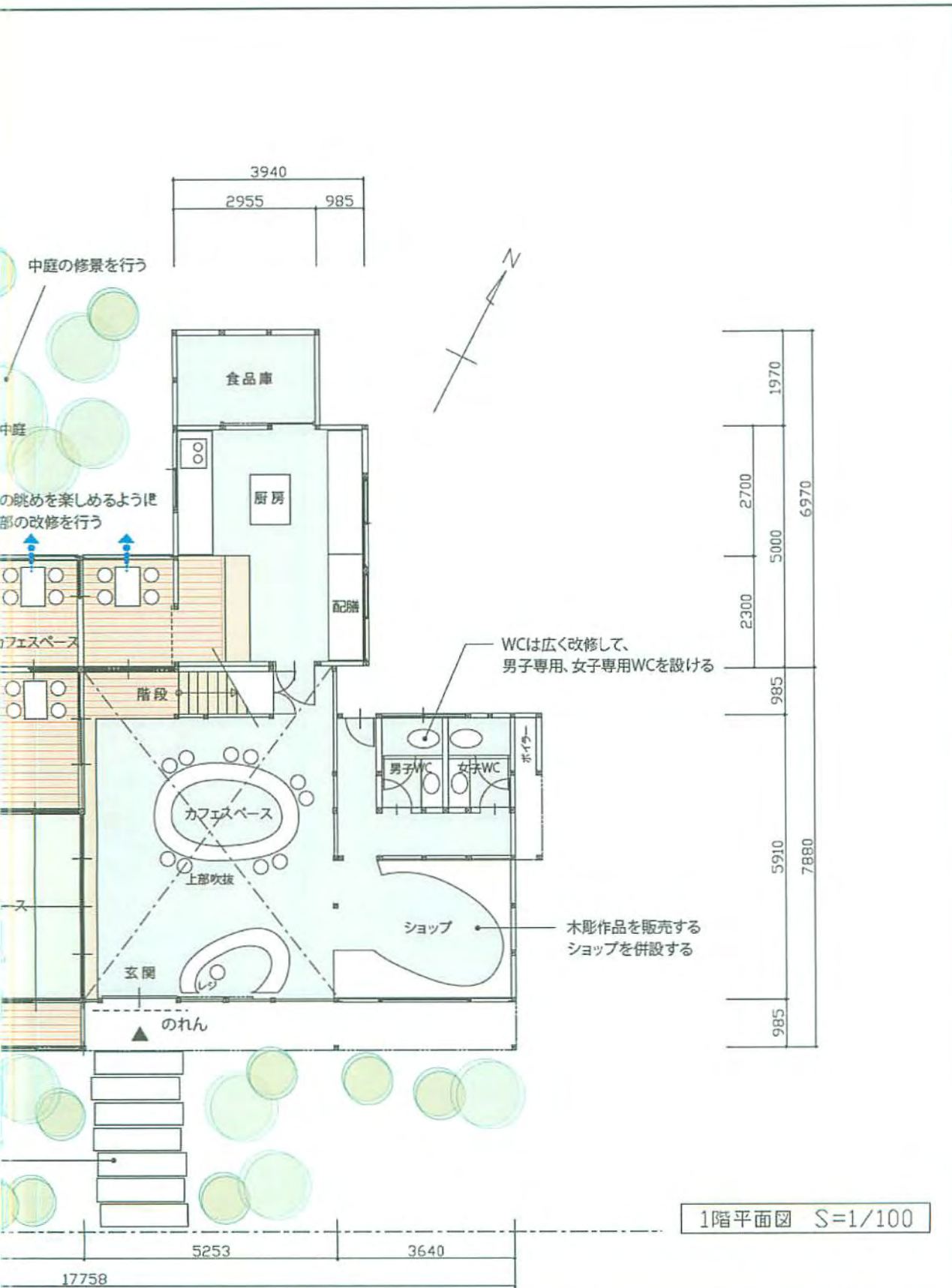
アートスペースや工房、Iターン者の居住、地域の交流施設として利用の仕組みをつくる。

<養蚕農家改修計画図・1階>



施工延床面積: (1階) 218.75㎡
 (2階) 55.92㎡
 (合計) 274.67㎡

概算工事費: 274.67㎡ × 14.5万円/㎡ ≒ 3,980万円

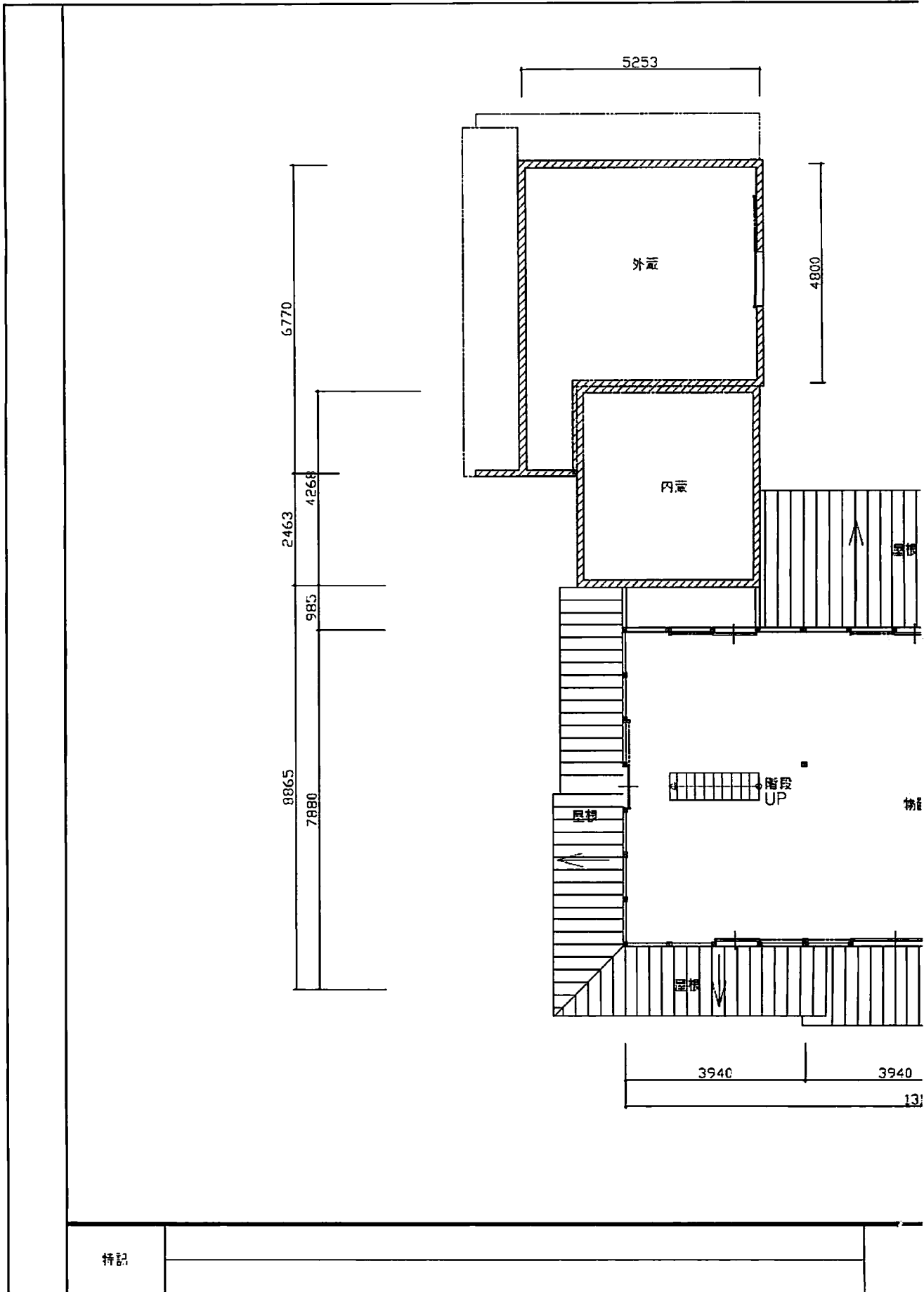


養蚕農家改修計画

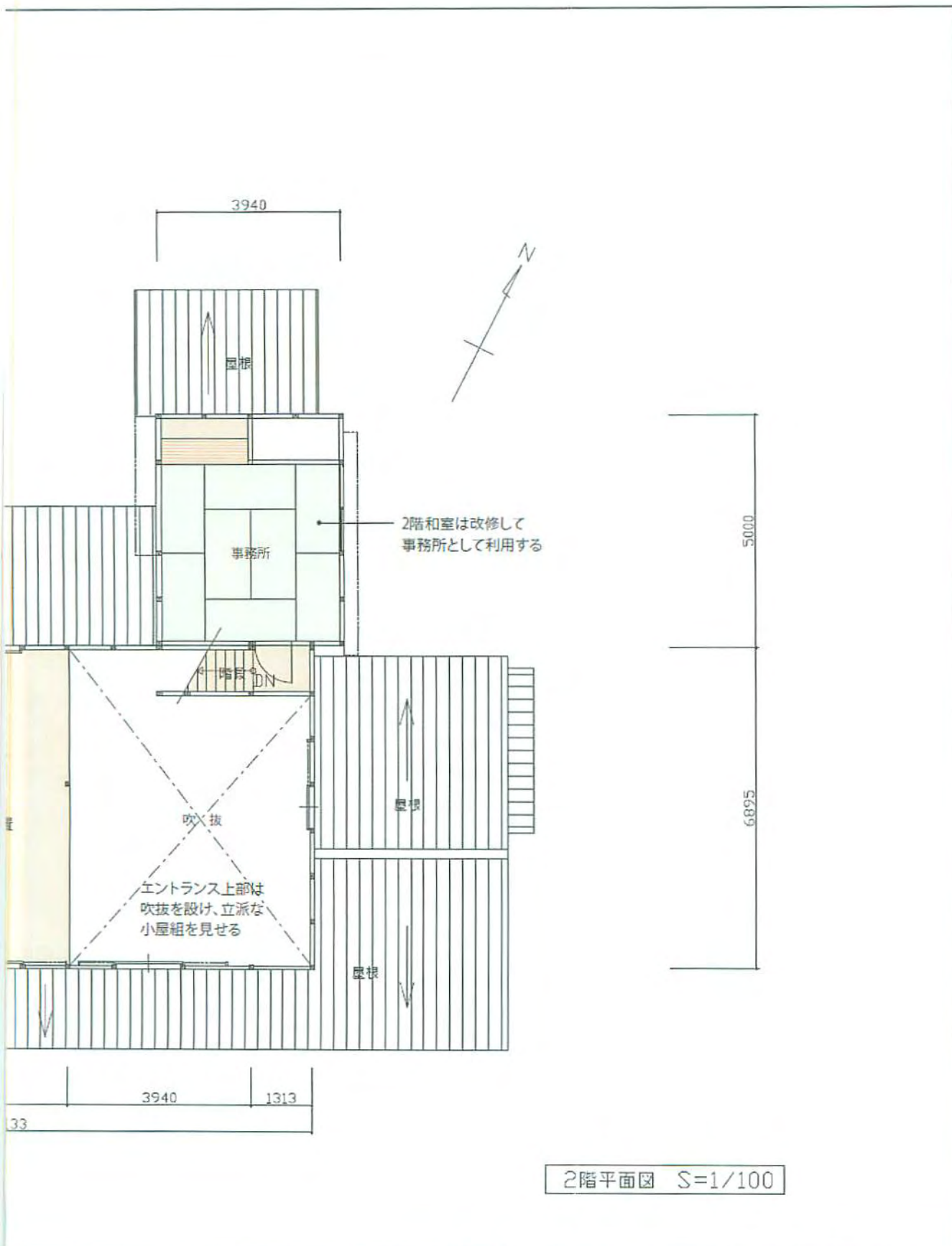
1階平面図

1/100

<養蚕農家改修計画図・2階>



特記



養蚕農家改修計画		
2階平面図		1/100

3-3 木彫展示館及び周辺整備

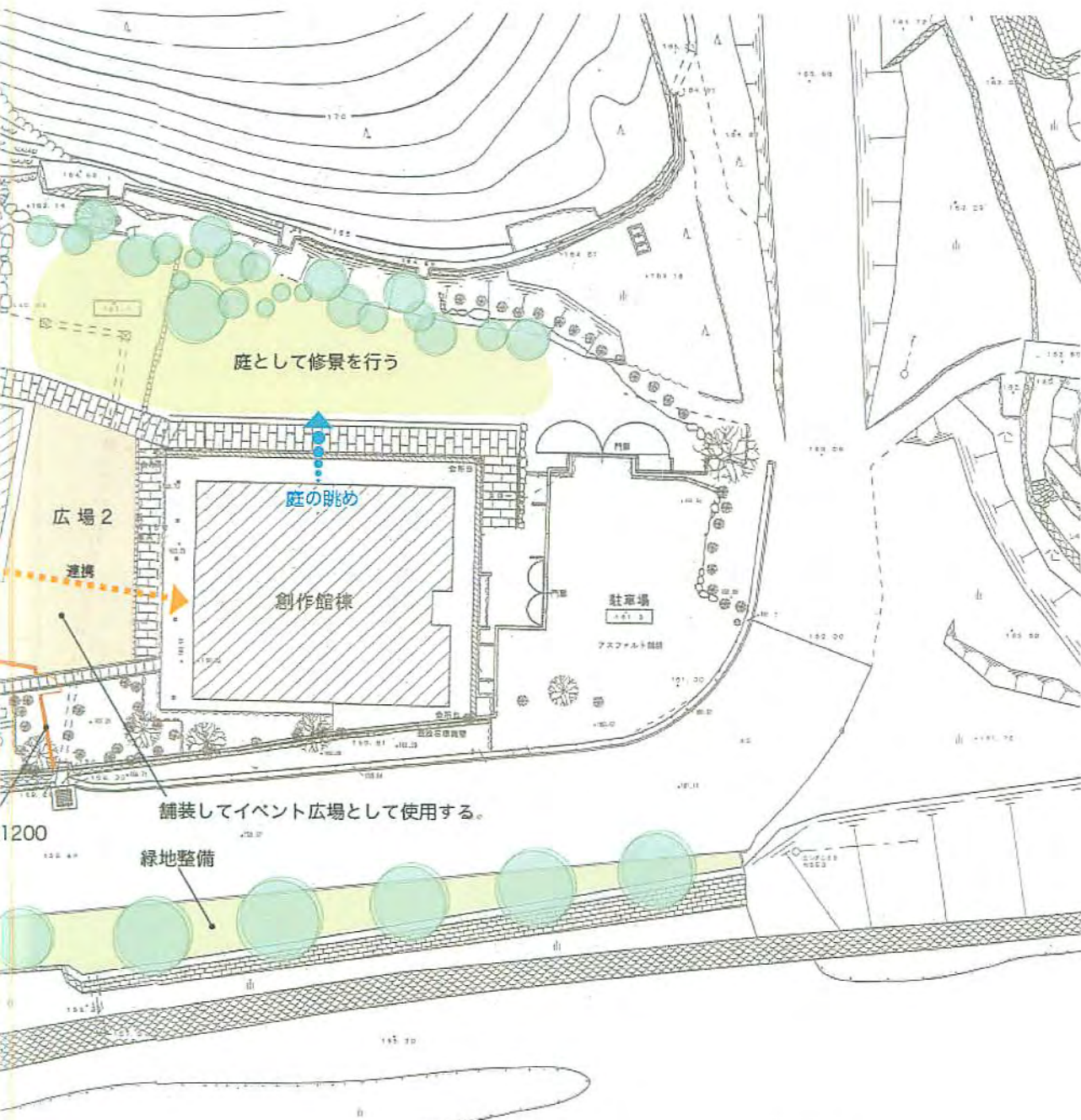
木彫展示館は、「BIG LABO」とともにおおやアート村の象徴的な施設である。展示棟では木彫フォークアートのこれまでの入選作品 105 点を収蔵・展示しており、創作棟では木彫同好会の活動の場となっている。また、建物自体は築 120 年で大杉景観形成地区のシンボリックな存在であり、兵庫県の景観形成重要建築物にも指定されている。

施設運営整備上の課題としては、利用度を高めることがあげられる。このために以下の整備を行うこととする。

- (1) 既存の展示台を県立美術館で使用したような小型台に入れ替える。また、土間の照明器具の追加、テーマ性のある展示方法等に変更する。
- (2) 車での利用者の利便を高めるための駐車場のリニューアル整備をする。
- (3) 大屋川沿いという良好なロケーションを生かした憩いの場、景観の視点場づくりをする。
- (4) 建物敷地内でのイベント等への対応や環境向上に向けた広場や庭等の整備をする。(図7)

3-4 概算事業費

項 目	事業費 (千円)
2 木彫展示館駐車場整備 (370 m ²)	5,000
3 木彫展示館前広場整備 (80 m ²)	3,200
4 案内・誘導サイン整備 (案内サイン1基、誘導サイン5基)	2,000
5 養蚕農家改修整備 (空き家: 1棟)	40,000
合 計	50,200



バス待ちや休憩のための
広場を設置する
床仕上げは木製デッキ材
既存の大きな木を活かす

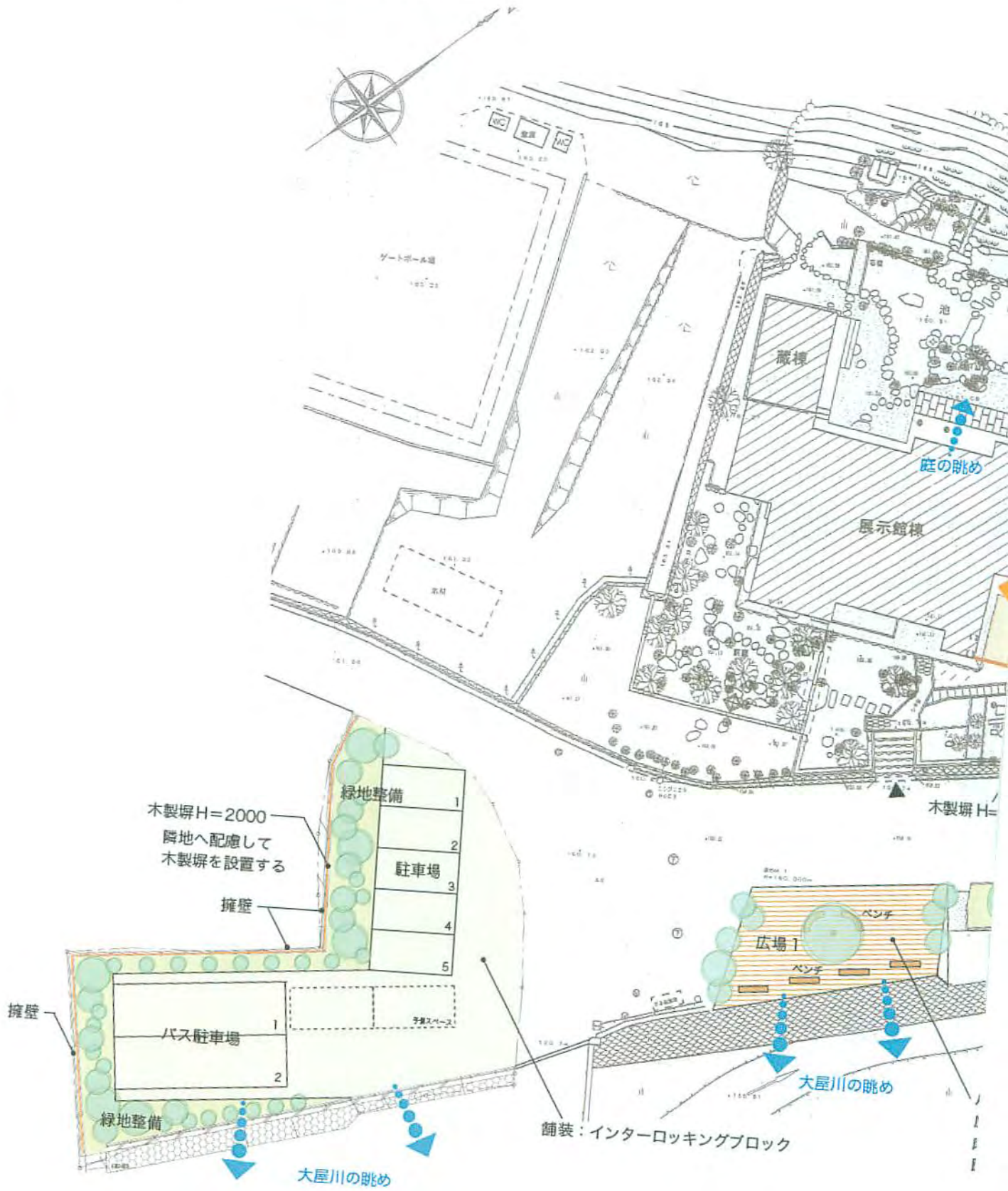
概算費用：

(広場1) [面積 80㎡]

石積み擁壁工事	100万円
木製デッキ	160万円
ベンチ・植栽	60万円
合計	320万円

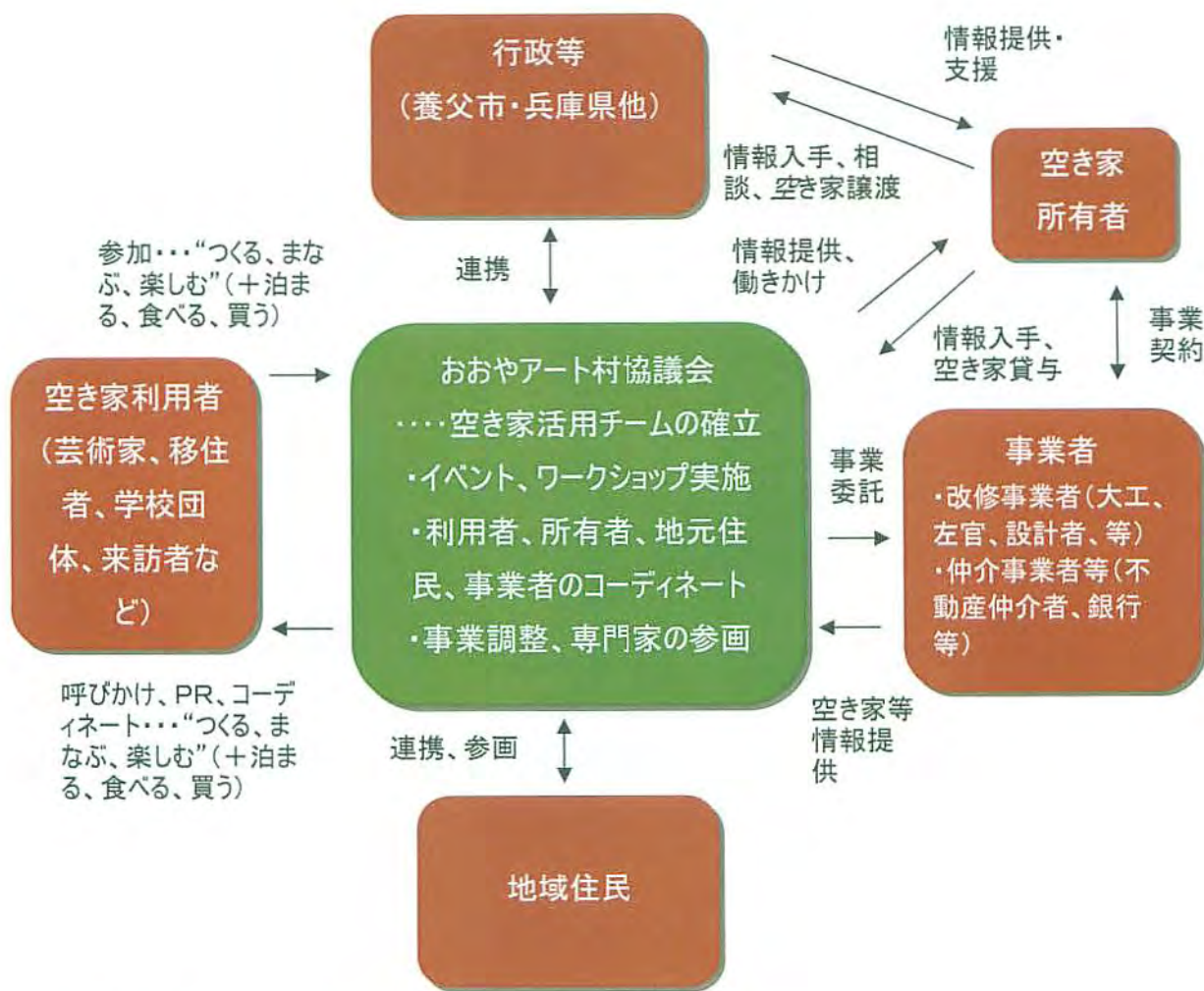
〈 木彫展示館周辺整備計画図 〉 S.1:300

図7 <木彫展示館及び周辺整備図>



IV 空き家活用の仕組みづくり

空き家の活用をアート村づくり、地域づくりとして展開していくためには、空き家所有者、空き家の利用者、改修や仲介等に携わる事業者、地元住民、行政等、そしてアート村が効果的に関連する仕組みが必要である。



<空き家活用の事業手法>

空き家活用を円滑に進めるためには、資金をどのように調達するかが重要なポイントとなる。以下に、先に述べたステップにふさわしい事業手法をあげる。

●「地域再生拠点等プロジェクト支援事業」（兵庫県地域再生課）

本計画はこの兵庫県の制度にもとづいて策定されるが、平成24年度以降は施設整備やソフト事業に対して助成がある（最長3年間、事業規模の想定1千万円～1億円、県1/2）。これらは、先に述べたステップ1、2といった初動期から施設整備まで対応可能な事業で、地域の拠点施設となる建物に適用する。

●「実践トライやる事業」、「ふるさと自立拠点整備支援事業」（兵庫県地域再生課）

大杉地区は平成23年度に兵庫県の地域支援事業である「ふるさと自立計画」の策定に取り組んでおり今年度に策定予定である。この計画を実現するために、平成24年度からは「実践トライやる事業」があり、建物の簡易な改修や交流イベントなどに対して助成がある（県1/2、助成限度額150万円（全体事業費）。ただし、ひょうごポイントの活用により県3/4までかさ上げ可能）。また、「ふるさと自立拠点整備支援事業」は、交流拠点等の施設整備に対する助成である（県1/2、助成限度額600万円（全体事業費）、ただしひょうごポイントの活用により県3/4までかさ上げ可能）。

●「古民家再生促進支援事業」（兵庫県住宅建築局）

「1. 建物調査」から始まり、「2. 再生提案」、「3. 再生・活用」と進んでいく兵庫県の助成事業で、築50年以上の古民家が対象となる。「1. 建物調査」、「2. 再生提案」で専門家の派遣を受けて事業を行うことができる（全額兵庫県負担）。「3. 再生・活用」では改修工事費に助成があり、地元負担、市の負担が条件となるとともに（県：1/3、市：1/3、地元1/3、補助限度額、1千万円（全体事業費））、10年間は地域交流施設として活用することが必要となる。

これらは上記2つの事業で対象となる拠点施設整備以外の空き家、古民家を対象とする。



<「古民家再生促進支援事業」パンフレットより>

●「重要伝統的建造物群保存地区」（文化庁）

大杉地区は平成13年に兵庫県の歴史的景観形成地区に指定されており、伝統的建造物群保存地区（伝建地区）の予備的な調査も行われている。正式に重要伝統的建造物群保存地区に選定されれば、区域内のすべての伝統的建造物に対して1棟当たり数百万円の公的助成が可能となる。ただし、重伝建調査に数年間かかるため、この適用での空き家利用は中長期的な視点で対応していくことになる。

〈参考〉

伝統的建造物群保存地区

昭和50年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。市町村は、伝統的建造物群保存地区を決定し、地区内の保存事業を計画的に進めるため保存条例に基づき保存計画を定めます。国は市町村からの申出を受けて、我が国にとって価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。

市町村の保存・活用の取組みに対し、文化庁や都道府県教育委員会は指導・助言を行い、また、市町村が行う修理・修景事業、防災設備の設置事業、案内板の設置事業等に対して補助し、税制優遇措置を設ける等の支援を行っています。

平成23年11月29日現在、重要伝統的建造物群保存地区は、77市町村で93地区（合計面積約3,500ha）あり、約18,600件の伝統的建造物が保存すべき建造物として特定されています。

重要伝統的建造物群保存地区選定基準（昭和50年11月20日文部省告示第157号）

伝統的建造物群保存地区を形成している区域のうち次の各号の一に該当するもの

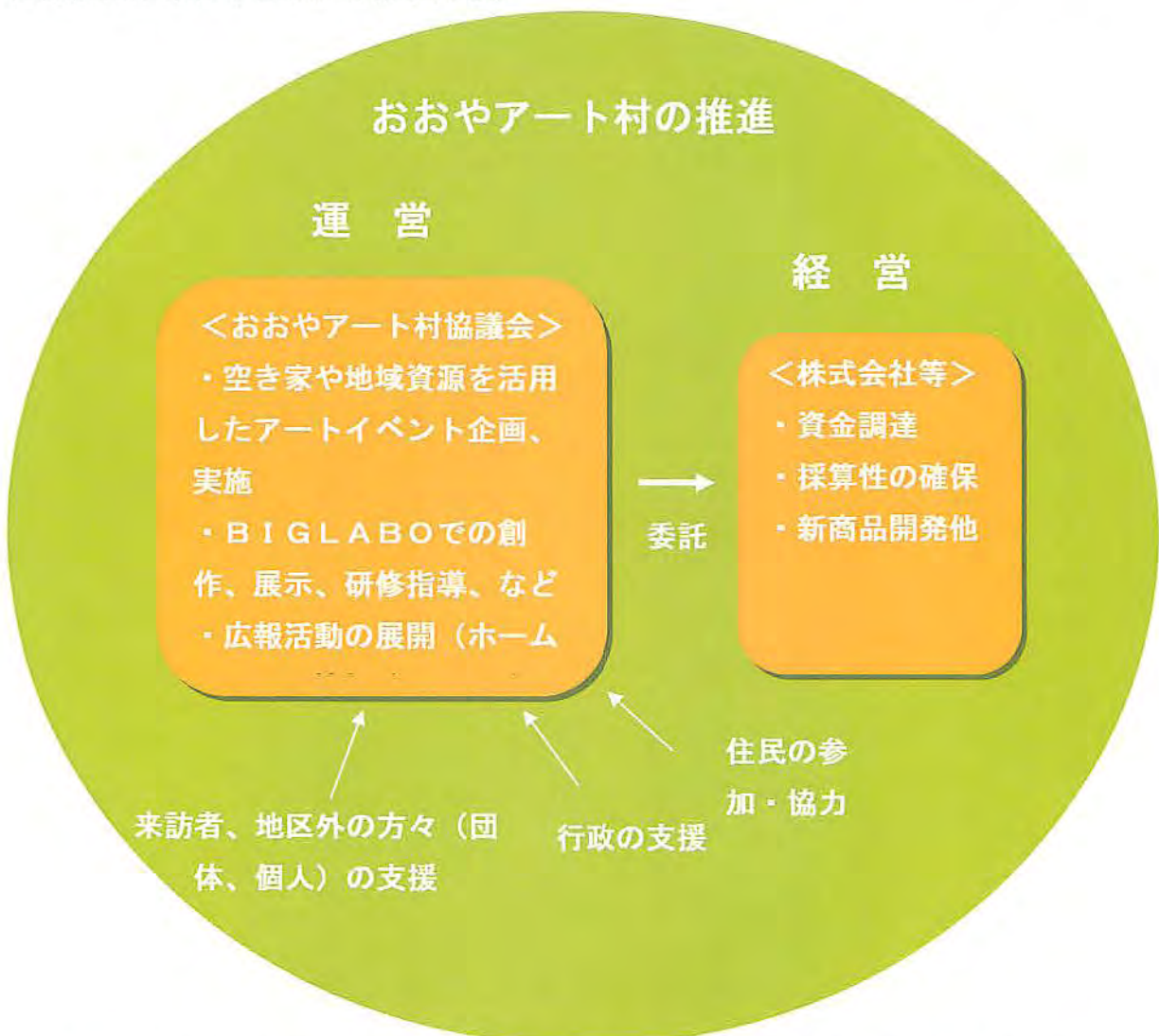
- ①伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの
- ②伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの
- ③伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

（文化庁HPから）

V 事業推進方策

これまで掲げてきたおおやアート村を実現していくための取り組みは、多彩な事業内容となっており、また旧大屋町並びに取り組みが集中する“大杉ビレッジ”の人口規模からしても容易に進められるとは言えないものである。すなわち、昨今の自治体経営を取り巻く情勢からみてもすべてを公的な資金投入で賄うことは難しいと考えられ、また芸術家が主体となる現時点における「おおやアート村協議会」が事業推進を一手に担うには“経営的”な面での負荷が大きい。

よって、これらの事業を進めていくためには、下図に示すように運営主体とは別に経営主体をおくことが考えられる。



なお、これは一つの事業推進のありかたを示したものであり、他の案としては、経営主体をおおやアート村協議会の中に設置する方法、運営主体と経営主体が共同して事業を推進する方法（LLP：有限責任事業組合）、第3セクターといった運営・経営方法が考えられる。

〈参考〉 地域再生拠点等プロジェクト計画策定事業の取り組みの経過

1 おおやアート村協議会プロジェクト部会

回数	期 日	場 所	内 容	参加者
第1回	平成23年8月2日(火) 午後7時30分～10時	大屋市民 センター	事業説明、役員の選出、意見交換、スケジュール等	11名
第2回	平成23年8月22日 (月) 午後7時30分～10時	大屋市民 センター	地域再生拠点等プロジェクト計画策定事業について	8名
現地調査	平成23年9月4日(日)	大杉地区の現地調査を予定していたが、台風の影響ため中止。		
第3回	平成23年10月1日 (土) 午後7時～10時	ふるさと 交流の家 いろり	現地調査に訪れているアドバイザーの工藤先生、明石高専学生との意見交換	8名
第4回	平成24年2月9日(木) 午後7時～10時	大屋市民 センター	木彫展示館の展示方法、大杉エリアの計画検討、町内資源のミニラボ化の検討	8人
第5回	平成24年3月6日(木) 午後7時30分～10時	大屋市民 センター	計画書(素案)の検討	9人

〈構成メンバー〉

- ・ おおやアート村協議会 田路誓志、正垣吉規、中尾健二、岡 和己、羽渕秀樹、井平 聡、河辺喜代美
- ・ コンサル 中井 豊(中井都市研究室代表) ※第3回から参加
- ・ 兵庫県 名倉嗣朗、田口修由(地域再生課)
- ・ 養父市 和田祐之、高木信彦(大屋地域局)、

2 アドバイザー、コンサルとの打ち合わせ会

回数	期 日	場 所	内 容	参加者
第1回	平成23年9月13日 (火)	明石高専 工藤研究室	大杉地区現地調査の日程調整と協議、調査経費について	3名
第2回	平成23年12月19日 (月)	明石高専 工藤研究室	現地調査(大杉集落マップ)の中間報告、木彫展示館の展示方法の検討、先進	4名

			地視察	
第3回	平成24年1月12日 (木)	明石高専 工藤研究室	大杉集落マップの校正、木彫展示館の展示方法やサイン計画の検討	6名
第4回	平成24年2月13日 (月)	明石高専 工藤研究室	サイン計画の検討及び計画案の検討	5名

〈参加メンバー〉

- ・アドバイザー 工藤和美（国立明石工業高等専門学校准教授）
- ・コンサル 中井 豊（中井都市研究室代表）
- ・おおやアート村協議会 正垣吉規（木彫展示館）、小松崎紀子
- ・兵庫県 田口修由（地域再生課）
- ・養父市 和田祐之（大屋地域局）

3 明石高専工藤研究室の現地調査活動

回数	期 日	場 所	内 容	参加者
第1回	平成23年9月24日 (土)～25(日)	大杉地区	大杉集落マップ作成にかか る現地調査	8名
第2回	平成23年10月1日 (土)～2(日)	大杉地区	大杉集落マップ作成にかか る現地調査	10名
第3回	平成23年12月3日 (土)～4(日)	大杉地区	大杉集落マップ作成にかか る現地調査	6名
第4回	平成23年12月27日 (土)	大杉地区	大杉集落マップの現地最終 確認	3名

4 魅力ある木彫展示館のための検討会議

期 日	場 所	内 容	参加者
平成23年12月27日(火) 午後2時30分～5時	木彫展示 館	明石高専工藤研究室から木 彫展示館の展示方法につい て、木彫展示館運営委員会 の説明及び検討	13名

〈参加メンバー〉

- ・アドバイザー 工藤和美（国立明石工業高等専門学校准教授）
- ・明石工業高等専門学校 青木美音、下崎愛子、住友妙子
- ・おおやアート村協議会 正垣吉規

- ・木彫展示館運営委員 8名
- ・養父市 和田祐之、羽瀧裕之（大屋地域局）

5 先進地視察

期 日	場 所	内 容	参加者
平成 24 年 1 月 22 日(日) ～23 (月)	和歌山県田辺市	秋津野ガルデン、直売所「きてら」、古民家アトリエ「もじけハウス」、熊野古道集落（中辺路町近露、高原）	18名

〈参加メンバー〉

- ・アドバイザー 工藤和美（国立明石工業高等専門学校准教授）
- ・明石工業高等専門学校 下崎愛子
- ・コンサル 中井 豊（中井都市研究室代表）
- ・おおやアート村協議会 清都一成、田路誓志、田中今子、服部勝之、岡 和己、羽瀧浜太郎、河辺喜代美
- ・郷蔵の会 松岡 勇
- ・ふるさといろいろの会 正垣富美代
- ・兵庫県 濱西喜生、田口修由
- ・養父市 和田祐之、小畑隆男、高木信彦、茨木信雄

6 計画策定検討会議

回数	期 日	場 所	内 容	参加者
第 1 回	平成 23 年 11 月 9 日 (水) 午後 1 時 30 分～4 時	大屋市民センター	現地見学、事業説明、意見交換、スケジュール確認	11名
第 2 回	平成 24 年 3 月 14 日 (水) 午後 1 時～10 時	大屋市民センター	地域再生拠点等プロジェクト計画書（素案）の検討について	15名

〈参加メンバー〉

- ・アドバイザー 光多長温（鳥取大学特任教授）
- 〃 工藤和美（国立明石工業高等専門学校准教授）
- ・コンサル 中井 豊（中井都市研究室代表）
- ・明石工業高等専門学校 青木美音、住友妙子
- ・おおやアート村協議会 清都一成、田中今子、正垣吉規、河辺喜代美、小松崎紀子
- ・兵庫県 名倉嗣朗、田口修由
- ・養父市 長瀬邦彦、和田祐之、小畑隆男、羽瀧裕之（大屋地域局）

2012年4月29日はじまる つくる!まなぶ!たのしい!

兵庫県の北に位置する、山間の自然豊かな養父市大屋町。廃校となった高校の校舎を利用し、自然とともに暮らす人々とアートが融合する場所として、おおやアート村『ビッグラボ』がオープンします。木彫、木工、書、絵画、陶芸、染織、さをり織などの手づくり体験が楽しめる木造校舎や体育館を改装したギャラリーなど。のんびりとした豊かな空間で、つくって、まなんで、たのしいアートのじっけんがはじまります。ぜひ、お気軽におこしく下さい!

アートの
おおきな
じっけん室



BIG LABO

おおやアート村

はじめの日の催し

🐱 オープニングセレモニー
10:00～

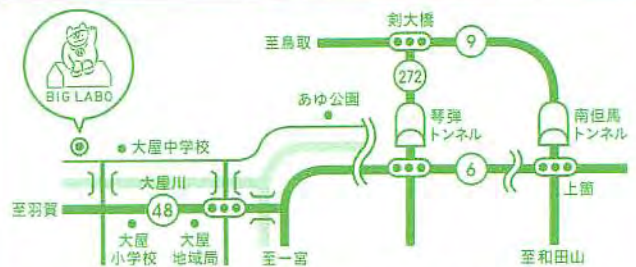
🐱 体験ワークショップ
10:00～15:30

- 松田一戯の「木彫ライブパフォーマンス」
大きな木を彫る体験が出来ます!
- スティールパン演奏体験! 大屋PANの学校
- 田中今子の「川の石で石ころアート」
- 近藤研秀の「好きな言葉を作品にしよう」
- 勝純美の「みんなで織る一枚のさをり織」

* 材料費・体験費が別途かかるものがあります。
* ワークショップの内容は変更される場合があります。

🐱 旧八鹿高等学校大屋校 卒業生写真展

2012年
4月29日
はじまる



兵庫県養父市大屋町加保7 (旧八鹿高等学校大屋校)
TEL 079-669-2449 FAX 079-669-2448
メール biglabo-ooya@city.yabu.hyogo.jp
ブログ http://d.hatena.ne.jp/biglabo_blog/
駐車場あり ※一部改修工事をしております。



同時開催!! 加保坂のミズバショウ祭!!

約2,000株のミズバショウが自生する貴重な群生地。特産品の販売・餅まき・バザー・野菜や花の直売などの様々な催しが行われます。

加保坂ミズバショウ公園 入園料250円 (BIG LABOから車で約10分)
養父市大屋町加保坂58 TEL 079-669-1104 (大屋町観光協会)

新しいじっけん! 田舎のカガク変化がはじまる

BIG LABO Exhibition!

2012年4月29日(日)～7月31日(火)

主催: 養父市・おおやアート村協議会

自然豊かでユートピア感あふれる養父市大屋町。体育館を改装した、おおきなギャラリーにていろんなジャンルのアート作品が集結します。田舎ならではの静かなのんびりとした空間で熱いアートのカガク変化がはじまります。ぜひ、お気軽におこしください。

養父市作家

[敬称略・順不同]

《木彫》松田一戯 / 松田京子 / 中尾健二 《木工》松田掲三 《書》西野玉龍 / 綿貫墨石 / 近藤研秀 / 前田華汀 / 西野象山 / 西野桃笠 《絵画》大越元一 / 児島勝 / 栃尾隆弘 / 太田明 / 田中今子 《陶芸》吉井周平 / 吉井直行 / 上山とみこ 《染織》戸川勝義 《さをり織》勝純美 《剪画》阪根美智子 《立体》宿南泉 《平面》藤原正和 《イラスト》kei. / Tam

招待作家

《木彫》石田えいじ 《彫刻》鬼塚良昭 / 長尾恵那 / 藤本イサム 《絵画》来住しげ樹 《平面》中村ちとせ

入場料 一般 300円 [200円]

中学生以下 150円 [100円]

※[]内は団体料金 (15名以上)

時間 9:00～17:00 (入場は16:30まで) ※4月29日のみ10:00開場

休館日 水曜日 (水曜日が祝日の場合はその翌日)

◎兵庫県在住の小中学生は「ひょうごっ子ココロカード」の提示で無料となります

来る!

ゴールデンウィーク!! 体験ワークショップスケジュール

	4月30日(月)	5月1日(火)	5月2日(水)	5月3日(木)	5月4日(金)	5月5日(土)	5月6日(日)
10:00 12:00	書 絵画 染織 さをり織	木彫 絵画	定休日	木彫 絵画	木彫 書	木彫 絵画 さをり織	木彫 陶芸 さをり織
13:30 15:30	書 絵画 陶芸 さをり織	絵画 陶芸 染織		木彫 絵画 陶芸	木彫 絵画 陶芸	木彫 絵画 陶芸 さをり織	絵画 さをり織

* 材料費・体験費が別途かかります。 * ワークショップの内容は変更される場合があります。

つくる! まなぶ! たのしい!



芸術の秋を体験!

暮らしにアートを!



BIG LABO

おおやアート村



おおやアート村 BIG LABO 9月のワークショップ



毎週 土曜日 暮らしにアートを

絵本をつくろう!!
講師: いしいじゅね

★好きな絵を描いて
創作絵本をつくろう!

◎9:00~12:00
・参加費 600円
・定員 10名
[持ち物] くれよん、絵の具など
紙(どんな紙でもできます)

1 (土) 2 (日) 8 (土)
9 (日) 15 (土) 16 (日)

**木のキーホルダーを
つくろう!!**

★好きなかたちに切ったり
彫ったり色をぬったり!!

◎10:00~16:00
(12:00~13:00 昼休み)
・参加費 600円~
・所要時間 約1時間

8 (土) 15 (土) 気軽にアート

**川の水で
石ころアート!**

★いろんなかたちの石に
絵の具で好きな絵を
かこう!!

◎10:00~15:00
(12:00~13:00 昼休み)
・参加費 600円
・所要時間 約1時間

11 (火) 18 (火) 25 (火)

**いまこ
アトリエクラブ**

★田中今子の絵画教室の
おためしコースです!

◎13:30~17:00
・参加費 2300円 (一回限り)

13 (木) 暮らしにアートを

研秀の写経教室

★写経講座
般若心経を書き写します

◎10:00~12:00
・参加費 1500円
・要予約

15 (土) 29 (土) 華江のアート

篆刻(てんこく)教室

★石のはんこづくり♪
自分の名前を彫ろう!

◎10:00~12:00
・参加費おとな 2500円
こども 1500円
・要予約

15 (土) 29 (土) 華江のアート

華江の教室

★名前や住所、のし袋の
表書きを書いてみよう!

◎13:30~15:30
・参加費おとな 2500円
・要予約



ミニ情報!

おおやホールにて **車で1分!**
『第19回
木彫フォークアート
おおや』開催!

9月21日(金)~10月8日(月)
9:00~17:00
お問い合わせ: TEL 079-669-0120
兵庫県養父市大屋町山路7番地

16 (日) 30 (日) 暮らしにアートを

草木染め・藍染め

★絞り・ローケツ染めで
手ぬぐい、ストールなど
を染めよう!

◎10:00~16:00
・参加費 1000円~
・所要時間 1~2時間

16 (日) 暮らしにアートを

**陶芸 花器を
つくろう!!**

★好きな模様やかたちの
オリジナル植木鉢♪

◎13:00~17:00
・参加費 1300円
・定員 15名
・要予約

22 (土) 暮らしにアートを

**陶芸 作りたい物を
作りましょ。**

★好きな模様やかたちの
なんでも自由につくる!

◎13:00~17:00
・参加費 1500円
・定員 15名
・要予約

22 (土) 23 (日) 気軽にアート

糸糸であそぼう!!

★さをり織で思いのままに
好きなものをつくろう!!

◎時間 / 応相談
・参加費 600円 (施設使用料+講習代)
+作った物の糸代
・要予約
・8.9.16.17.30日も可能 (要確認)

29 (土) 30 (日) 暮らしにアートを

**松田一戯の木彫
まねきねこ教室**

★H13cmのまねきねこを
2日間で彫ります!!

◎10:00~17:00
・参加費 5600円
・定員 8名
・要予約

つくって、まなんで、
たのしいアートを体
験しよう! 木彫、書道、
絵画、陶芸、さをり織、
染色の手づくり体験
ができます。暮らしのなかに、
たくさんのワクワクを! どうぞ
お気軽にご参加ください♪
ご予約やお問い合わせなど、どん
どん受け付けております!

**アートのおおきな
じっけん室**

BIG LABO

※内容は変更される場合があります。

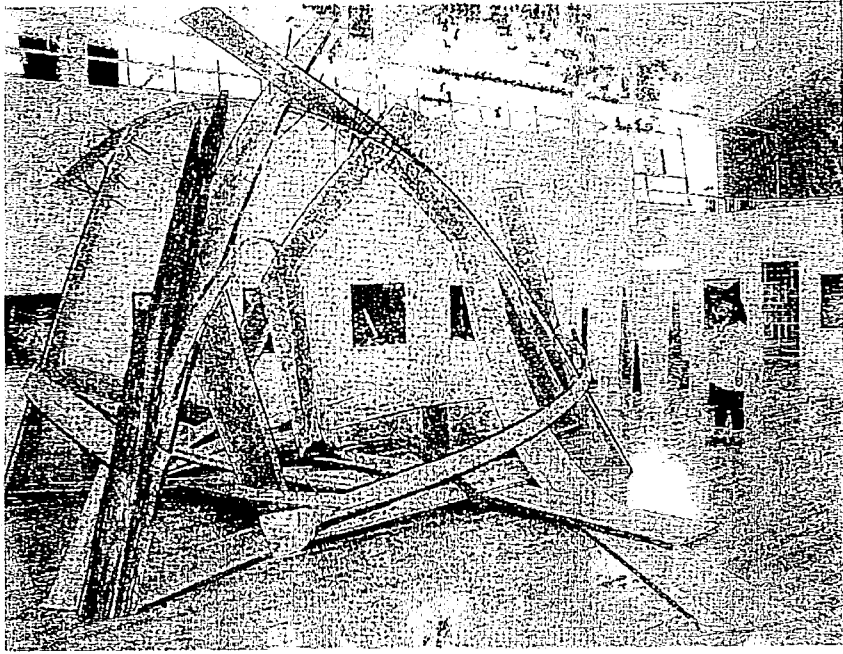
【お問い合わせ】おおやアート村 BIG LABO (9:00~17:00/水曜定休) 〒667-0315 兵庫県養父市大屋町加保7

TEL 079-669-2449 **FAX 079-669-2448**

アート村手応えあり

養父・大屋町 廃校利用の展示会 第2期開始

養父市大屋町加保の廃校を利用したアート展示場「おおやアート村ビッグラボ」で9日、第2期(11月27日まで)の作品展示が始まった。第1期(4月29日～7月31日)に続き町内外の作家が木彫りや絵画を出品。第1期の来場者は好調に推移しており、施設を整備した同市は「さらに町をにぎやかにしたい」とアートによる町おこしを推進する考えだ。



体育館を改修した展示場に展示されている見応えある作品＝9日、養父市大屋町加保のおおやアート村ビッグラボ

入場者の推移上々

ビッグラボは、同市600万円(今後の改修分含む)で改修した第1期には212年間の観光交流人口150万人の達成に発表した。第2期は、2010年に廃校した立八鹿高大屋校を約7

32人の作品80点を展示した第1期には2125人が来場。第3期(12月～2013年3月)を予定。までの入場目標は5千人に対して順調なスタートを切った。

第2期は、作家6人が手掛けた作品20点以上を展示。新たな試みとして、世に知られていない作家に焦点を当て、「クロスアップコーナー」を設置。地元で日本画を描くアマチュア画家、太田明さんの繊細な風景画など11作品を紹介している。

県外からは富山県の彫刻家、富山省三さん(72)が大屋町産の杉板を組み合わせた高さ約4・5メートルの作品を発表。「アートが身近にあると人の生き方が豊かになる」と開設を喜ぶ。

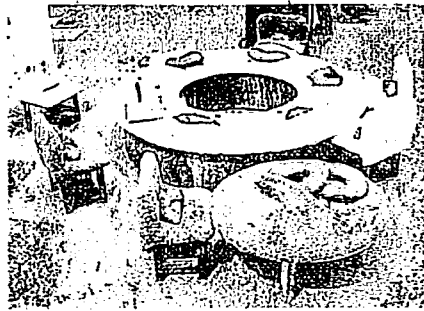
施設整備に当たっては、作家や住民でつくる「おおやアート村協議会」が市と連携した。しかし事務局長で画家の田中今子さん(49)は当初、計画に反対だった。「アートで町おこしに成功した例はほとんどない。それに作家は個性が強いので、協力することが不得意」と理由を語った。

大屋町では明延鉦山が閉山されてから過疎が進行。田中さんら作家仲間や住民も町の未来を懸念して「アートで町を元気にする」という市の趣旨に賛同。見守り委員会中心とな

って展示内容などを練っている。田中さんは「アートに対する敷居の高さを取り払いたい。特に地元の人々が愛着を感じる施設にしたい」と話していた。(山本圭介)

原点 大学の卒業制作

大学の卒業制作。いすに顔をあしらい、子どもに喜んでもらえた



関東の大学でデザインを学び、卒業制作で顔をイメージしたいすを手掛けた。背もたれに目、座面に口をあしらひ、愛らしい「表情」にドーナツ形のクッションを添えた。展示会で、

たじま で働く

～奮闘する若者たち～

おやア-ト村 小松崎 紀子さん(29)
おビグ.ラボ

子どもが寄ってきてくれた。ドーナツを口の穴に入れてもらい。座り心地が良くなるんだよ。喜んで腰掛け、遊び始めた。

茨城県出身。幼いころから絵が好きで、当たり前のように選んだ美術系の学科。卒業国際作品を通して人と心を通わせることができ、コミュニケーションはコミュニケーションと心に刻まれた。卒業後、就職した東京の広告会社で厳しさを味わった。依頼主からデザインの注文が入ると、案を考え、プレゼンテーションの準備に追われた。徹夜続きは当たり前。食生活も乱れた。3年ほど働いたが、体調を崩し、退職を余儀なくされた。

転職を重ねていたさなか、農村集落の人材確保を支援する農水省の事業「田舎で働き隊」を知った。都会で疲れた体を休めたいと応募。紹介された先が養父市大屋町の大屋振興公社だった。

2011年4月から研修生と



「ビグ・ラボ」シンボルマークの招き猫を描く小松崎紀子さん。おやおやアート村

して身を置き、最初は同公社が運営する「あゆ公園」(同町加保)の広告やレストランのメニューをデザインした。「面白いやん」「かわいく作ってくれてありがとう」。客や同僚からの反響が直接耳に入ってきた。広

告会社のころは依頼されたデザインを任せても、成果は知らされないことも多かった。大屋物のデザインを担当する。パソコンで再び「コミュニケーション」を

「コミュニケーション」という言葉が心にとりついて直接紙に描く方が好き。施設内だけでなく、同町の国指定無形民俗文化財「大杉さんざこ踊り」のPRのほりなども手掛ける。地域密着のデザイナーとして歩み始めた。来年以降も大屋にとどまりたい。「数年で去ってしまっただけで、残ることを希望したい。地域を輝かせる仕事を残したい」

(三上彰規)

見る人と心通わせたい

写真撮れば山に校長出現!!



養父・ビッグラボスタッフが作成

丸眼鏡に口ひげを生や BIG LABO(ビッグラボ)に描かれた首「(養父市大屋像画のようにみえるこの町加保)を見守るビッグラボ」のおおやアト村・ク校長先生だ。その名

高さ150センチ 格好の撮影スポットに

を大屋富士男校長先生という。

同施設は、旧八鹿高小学校の校舎などを活用して4月30日にオープン。

連休や休日に多くの家族連れが訪れ、記念写真を撮る人が多かった。同施設のアトスタッフ、小松崎紀子さん(29)が「学

校を見下ろすようにそびえる『大屋富士』を借景に、記念写真スポットを作ろう』と思い立った。

大屋富士男校長先生は1949年の八鹿高校大屋分校設立とともに就任

記念写真に収まるビッグラボのイベント関係者と「大屋富士男校長先生」のおおやアト村ビッグラボ

し、今年で63歳。同校が閉校になり一時引退したが、ビッグラボ開設で再び校長の職に就いた。同校から見ると富士山のように見える「大屋富士」から、同校を見守り続けているという設定。実物は高さ150センチ、顔の大きさが縦横それぞれ35センチほど。カメラと人の位置によって、顔の大きさや位置は変わる。うまく山の中央で大きく写るようにして、その下に人が集まれば格好の記念写真ポイントになる。

制作した小松崎さんは「設定に矛盾はありませんが、校長先生に親しんでほしい」と話している。

(三上彰規)

神戸新聞 2012.5.23

こんにちは ビッグラボ

(養父市大屋町)

兵庫

すつきり ワイドに 地域面



ビッグラボ入り口にある招き猫の彫刻

創作と交流の接点に

養父市大屋町加保に4月、芸術振興の拠点施設、おおよアート村「ビッグラボ」を市が開設した。廃校になった県立八鹿高校大屋校の校舎や体育館を活用、創作棟や展示場に生まれ変わらせた。【皆木成美】



分散ギャラリー「養蚕農家」の屋内

養父市大屋町は、か 展覧会を開催するなどつて明延鉱山で栄え 芸術振興に力を入れ、た。現在は全国公募の 木彫や絵画、書、陶芸木彫フォーカートの などの芸術家が移り住

んでいる。

開設を記念して、地元芸術家らによる展覧会が7月31日まで開かれている。32人が約80点を出品している。

ビッグラボから約1キロ行くと、養蚕農家の家を改造した分散ギャラリー「養蚕農家」(養父市大屋町大杉)がある。ガラス窓から差し込む日差しが、柱や床

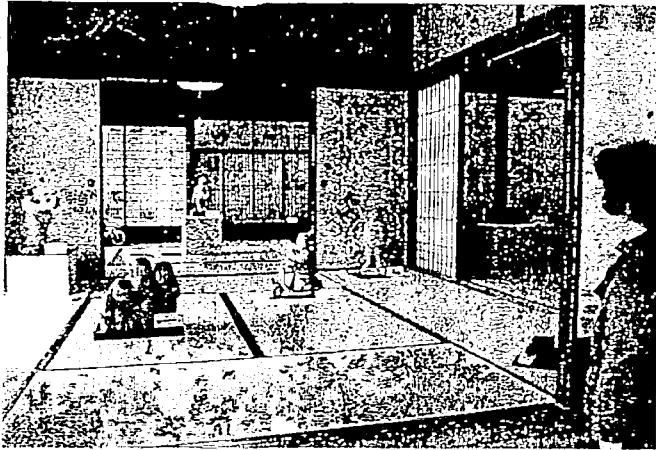
を照らす。建物自体が芸術作品のようだ。「養蚕農家」近くの古民家を再生した木彫展示館(同市大屋町大杉)には、木彫フォー

クアートの展覧会に出品された作品を展示している。大阪府茨木市から移住した画家、田中今子さん(49)は「ビッグラボは芸術施設であって交流の場。廊下を近所の子ともが走り回っていたり、絶えずいる人なが入り出している。ここにいる芸術家は地域の人々との交流の中から作品を生み出している」と話している。

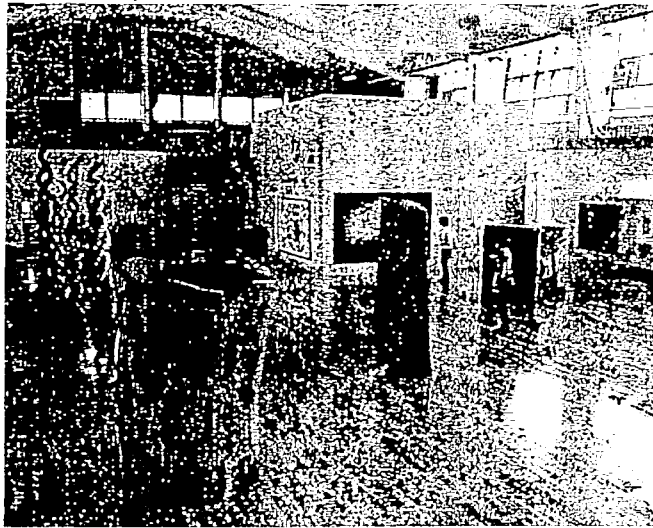


木造校舎が創作棟に生まれ変わった

写真 探訪



古民家を利用した木彫展示館

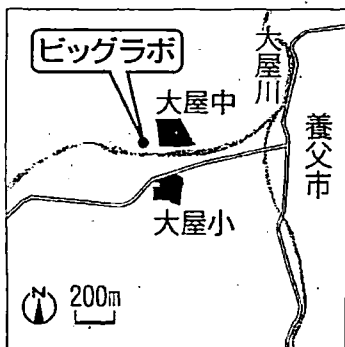


体育館を再活用した展示場は大型の彫刻作品を並べることができる



創作棟で書道教室も開かれる

廃校校舎や古民家活用



アクセス
 養父市役所の南西約12
 市立大屋中学校近く。展
 覧会は300円、中学生以
 下150円。水曜休館。問い
 合わせはビッグラボ(07
 9・6669・2449)。

高校
鹿屋
旧大

「おおやアート村」オープン

但馬の32作家が展示



さまざまなジャンルのア
ート作品が並ぶ記念展覧
会「旧八鹿高校大屋校

りたい」と目を輝かせて
いた。

記念展覧会は7月31日
まで。大型連休中、午前
10時～正午と午後1時半
～3時半に出品作家によ
るワークショップを開
催。入館料一般300円、
中学生以下150円。午
前9時～午後5時。水曜
休館。☎079・669
・2449（三上彰規）

アートによる地域おこ
しの拠点施設「おおやア
ート村・BIG LAB
O（ビッグ・ラボ）」が29
日、養父市大屋町加保の
旧八鹿高校大屋校の校舎
にオープンした。式典に
は住民ら約300人が参
加、施設の完成を祝った。
大屋では多数の芸術家
が活動し、全国公募展「木
彫フオークアート・おお
や」が1994年から毎

年開かれている。養父市
は「おおやアート村構想」
を掲げ、大屋校の校舎や
体育館を拠点施設として
整備した。

体育館で開かれた記念
展覧会には、木彫や書な
ど但馬在住の作家32人の
80作品が並んだ。漫画家
志望という但馬農業高校
1年、羽刈美里さん（15）
は「私もここに展示して
ものを作るよ」と作品を作

神戸新聞 2012. 4. 30

廃校変身 芸術の場に



様々な木彫や絵画などのアートが展示された「ビッグラボエキシビジョン」

養父市大屋町加保に29日、芸術によるまちづくり構想「おおやアト村」の中心施設になる「BIG LABO(ビッグラボ)」がオープンした。廃校になった八鹿高校大屋校の校舎を改修した会場には、県内各地から約700人が訪れ、地元作家と交流しながら様々なアート体験などを楽しんだ。

養父市大屋地区に「BIG LABO」



作家の勝純美さん(中央)からさをり織りを習う子どもたち—いずれも養父市大屋町加保

県内から700人 地元作家と交流

オープンニングセレモニーでは、広瀬栄市長が「地域の人たちが培ってきた魅力に、さらに磨きををかけて、多くの人に楽しんでもらいたい」とあいさつ。大屋中学校吹奏楽部員らの演奏の中、関係者らが丸太に渡したテープを切ってオープンを祝った。

木造校舎では作家が出迎えてアート体験の場が設けられた。さをり織りの勝純美さんや、石ころアートの画家、田中今子さんらが各教室で、訪れた子どもたちに直接指導して交流した。田中さんからの指導で初めて石ころアートに挑戦した神戸市の中井真さん(15)は「木造校舎は初めてで別世界のよう。雰囲気もアートも楽しめました」。

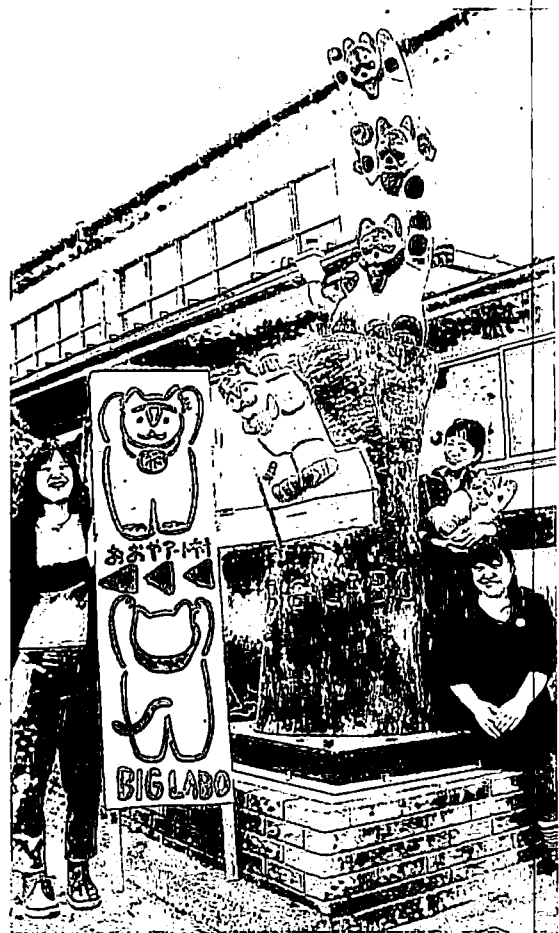
体育館を改修した大キヤラリーでは7月31日までの「ビッグラボエキシビジョン」が始まり、この日は無

料で開放。32人の作家が寄せた80点の絵画や巨大な木彫作品などが訪れた人を楽しませていた。

入場料一般300円、中学生以下150円。5月6日まで日替わりでワークショップがある(材料費など必要)。水曜休み。問い合わせはビッグラボ(079・669・2449)へ。

(伊藤周)

オープンを前に入り口のモニUMENTも完成したBIG LABO 養父市大屋町加保



アート村 あす開所

アート創作や鑑賞の拠点となる「おおやアート村 BIG LABO」が29日、養父市大屋町加保にオープンする。廃校になった八鹿高校大屋校舎の木造校舎や体育館を市が整備した。同日は午前10時からオープニングセレモニーがあり、様々なアート体験が用意されている。

旧八鹿高校大屋校舎を養父市改修

大屋地区では、木彫や木工、陶芸、さをり織などの作家が多く活動し、空き家を利用した展示館なども点在。1994年から始まった全国公募展「木彫フオークアート・おおや」など地域を挙げてアート活動を支援し、まちづくりに結びつける「おおやアート村構想」が進められている。

ビッグラボは2010年3月に廃校になった同校を活用。山や川に囲まれた体育館636平方分の空間を展示場、展示室にして、木造2階建ての校舎にある教室を六つの創作室に改修した。多目的に利用できる研修室もある。希望する作家は使用料を払って展示会や体験教室の開催にアトリエなどに利用できる。29日は松田一哉さんの「木彫

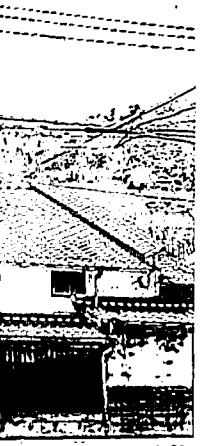
展示や創作・教室も

ライブパフォーマンス▽楽器スチールパンの演奏体験▽田中今子さんの「川の石で石ころアート」▽近藤研秀さんの「好きな言葉を作品にしよう」▽勝純美さんの「みんなで織る一枚のさをり織り」の体験ワークショップが開かれる。参加無料（一部材料費など必要）。

また、5月6日まででは地元作家による日替わりの体験ワークショップ（体験費、材料費が必要）があり、7月31日まで同市内の作家と招待作家計32人が結集して約80点の作品を展示する「エキシビジョン」を開催する。入場料は一般300円、中学生以下150円。29日は無料。水曜休館。問い合わせはビッグラボ（079・6699・2449）へ。（伊藤周）

竹田城跡 観光に拠点

朝来市「交流館」整備へ



春の褒章県

春の褒章受章者に県内か一奉仕活動らは36人が選ばれた。社会 1人、

カッコ内は受章の理由となった活動分野、業績。数字は発令日現在の年齢。敬称略。氏名は朝日新聞の字体で表記。

受章の皆さん

- ◇緑綬褒章◇
 - 嶋尾 正美 (社会奉仕)
 - ◇黄綬褒章◇
 - 粟蔵 富雄 (行政書)
 - 飯田 浩一 (機械設備保全)
 - 出雲 勉 (製菓)
 - 大蔵 岩満 (アーク溶接工)
 - 田田 哲司 (タービン組立)
 - 大利 信夫 (教科書供)
 - 小野 純夫 (造船)
 - 葛西 亮次 (水先)
 - 後藤 雅一 (酒類卸)
 - 堺 幸子 (婦人子供服仕)
 - 高橋 一夫 (司法書)
 - 土肥 芳郎 (釣針製)
 - 永浜 哲矢 (航空機操縦)
 - 丸尾 建城 (酪)
 - 三井 英三 (水先)



ハナミズキ通り

約900メートルの春盛り

JR八鹿駅前

養父市八鹿町のJR八鹿駅前の県道沿いに、約100本のハナミズキが、約9

00メートルの春盛り。29日、白や、いに咲く。養父市、地

生かしを求め、供、地的、内外

「おおやアート村」29日オープン

■養父・大屋町 ― 初日は無料

見る、作る 芸術の拠点

創作活動やアート作品の鑑賞などが楽しめる「おおやアート村」BIG LABO(ビッグ・ラボ)が29日、旧八鹿高校大屋校(養父市大屋町加保)にオープンする。初日は入場無料。セル・モノーのほか、芸術の「体験ワークショップ」(購買券)などを楽しむことができる。(三上彰規)

備後を叱りし父を偲ぶ八才を迎えし今朝に
田中 弘子
母の部屋を片づけをせよ若者の母の手紙出で来
めその手紙は舞
次々と老の悲報を聞く度におくもみ欄を一番に見
る
同村起美子
ステーションの奥の二百五十人が指揮者注視す微動た
にせず
選者
りさ
短歌会「権」
濱 守 選

矢香師
足立 重子
宮田江利子
光藤 佐
響きが残っているとき母は夢みていても大変
なこと
靴下の縫ひ隠してテートする話はずむに気にかか
りさ

但馬文芸

色鮮やか伝

以命亭 浜坂



「体験教室など楽しんで」

同市の「おおやアート村」セル・モノーは午前10時から。式典のほか、大屋中学校吹奏楽部などの演奏がある。7月31日まで開かれる展覧会「BIG LABO EXhibition」(エキシビション)には、養父市内外の31人が作品約80点を出品する。初日は入場無料。30日は一般300円、中学生以下150円。午前9時～午後5時。水曜休館。79-669-2449



シンボルマークの招き猫のポールも設置され、オープンを持つ「BIG LABO」旧八鹿高校大屋校

ビニールハウスの普及で栽培が途絶えていた神戸生まれのイチゴ「神戸1号」が、神戸市北区大沢町上大沢の農家で約40年ぶりに実をつけた。鮮やかな赤い色と、酸味と甘みが調和した味わいが特徴。復活に向けて運搬してきた同地区と市は今後、苗の増殖を図り、新たな特産品としての普及を目指す。同地区では昨年3月、大沢町自治連合会と市が、地域活性化に向けたパートナーシップ協定を締結。地区内に約10軒のイチゴ農園があることから、町おこしのきっかけになればと、神戸

幻のイチゴが甞る

旧大屋校に「アート村」拠点



養父市が新年度から「おやおやアート村」として整備を進める旧県立八鹿高校大屋校

養父市 来春、仮オープン

養父市は、新年度から2年計画で昨年3月に廃校となった旧県立八鹿高校大屋校を拠点に、芸術の創作活動などを支援する「おやおやアート村」の整備に取り組む。約1万5000平方メートルの敷地にある校舎や体育館、グラウンドを活用し、作家の制作や作品展示場とするほか、漫画図書館や子ども図書室なども整備し、市民が憩える場にする。2012年4月に仮オープンし、13年4月1日の本格運用を目指す。

(和田山通信部 田上秀樹)

同市は1994年から全円を見込み、11年度は560万円を一般会計当初予算案に計上した。計画では、11年度に木造2階建ての校舎(926平方メートル)や鉄骨2階建ての体育館1棟(925平方メートル)、部室1棟(72平方メートル)などを

改修して備品をそろえる。12年度は残りの鉄筋2階建て校舎1棟(910平方メートル)の改修とグラウンド、中庭を整備し、多目的スポーツ施設などとして活用する。

同市は毎年、フォークアートの優秀作品を買い取り、現在100点をコレクションとして木彫展示館(同市大杉)で一般公開している。また、同市大屋町に移住し、アトリエを構えて創作活動をする画家や陶芸家、書家らが作品を発表する「うちげえのアートおおや」も開かれていたほか、空き家だった養蚕住宅や旧郵便局舎を改修してギャラリーも開館している。

地元住民らは10年5月、

「おやおやアート村協議会」を設立し、廃校となった木造校舎を活用して工芸教室を開いている鳥取県岩美町の工芸村や淡路市の美術館などを視察し、「おやおやアート村」のたたき台となるプランを策定した。

養父市大屋地域の和田祐之・地域づくり担当参事は「アートはまちのにぎわいを創り出す大きな可能性を持っている。住民と一体となって盛り上げたい」と

話している。

養父市議会が開会

養父市の定例市議会は31日開会し、1994年度1億7525万円の2011年度一般会計当初予算案や、除雪対策事業費などを盛り込んだ1億7525万円を追加する今年度一般会計補正予算案など30議案が提出された。会期は3月24日までの3日間。一般質問は同月8、9両日。

読売新聞 2011.2.23

岩手・三陸鉄道開発 カレー&ハヤシ

缶詰食べて東北支援

大屋の復興支援委が販売



三陸鉄道が開発した「前向きカレー」と「前向きハヤシ」＝養父市大屋地域局

養父市大屋町に住む市民と市職員らでつくる「おおや東北復興支援プロジェクト委員会」がこのほど、岩手県のリアス式海岸沿いを走る第三セクター「三陸鉄道」が開発した「三鉄 前向きカレー&ハヤシ」の販売を始めた。

三陸鉄道は、昨年3月11日の東日本大震災で駅舎や線路、橋脚が崩壊・流出し、甚大な被害を受けた。北リアス線は一部区間をバスで代行輸送することで運行ができるようになったが、南リアス線は不通のままだ。

同社は北リアス線の運行再開を記念して今年4月、被災地支援の一環で、缶詰のカレーとハヤシを開発。頑張ろうとい

う気持ちを込めて「前向きカレー」「前向きハヤシ」と名付けて売り出した。この話を聞いた同委員会は、カレーとハヤシの缶詰計120個を買い取り、市内のイベントなどで販売することにした。

いずれも230円入り。岩手短角牛の肉をヤマブドウに漬け込み、

9・0120

同地域局 ☎079・66

9・0120

（三上彰規）

神新南 2012. 5. 25

カレーを食べて東北を支援しよう

私たちは、3.11の東日本大震災の被災地支援のため、三陸鉄道（岩手県宮古市）が開発した「三鉄 前向きカレー&ハヤシ」を応援販売しています。

三陸鉄道は3.11の地震で駅舎や路線、橋脚などが崩壊・流出し、甚大な被害を受けました。今でも全線復旧していません。会社では、鉄道事業以外での事業継続の取り組みとして、東日本大震災津波被災復興祈願レールとして販売したり、各種物販やイベント等の事業にも力を入れていて復興に取り込んでいます。

三陸鉄道では、北リアス線久慈駅―田野畑駅間の運行開始を記念して、この4月から被災地支援の一環で「三鉄 前向きカレー、ハヤシ」を開発・販売しました。「前向きになって復興に進む」との意味かが込められているようです。

私たちも被災地支援の何か協力できないかと考え、「三陸鉄道を勝手に応援する会」と連携して、市内のイベント等で販売することにしました。みなさんのご協力をお願いします。



【商品の特色】

- ①岩手短角牛をヤマブドウに漬け込み、柔らかく美味しい味にしました。
- ②カレールウ以外は全て岩手県産の食材を使用しています
- ③パウチの一般的なカレーよりも内容量が多いです（通常のパウチは200g、本品は230g）

定価 1缶 800円（カレー、ハヤシとも）

おおや東北復興支援プロジェクト委員会

事務局：兵庫県養父市大屋町大屋市場 20-1 大屋市民センター内「おおや村役場の会」

（担当：和田）TEL079-669-0120

復興支援へ缶詰販売

三陸鉄道「前向きカレー・ハヤシ」

19日、養父・大屋の有志

養父市大屋町の有志が「おおや東北復興支援プロジェクト委員会」を立ち上げた。手始めとして、岩手県の三陸鉄道が被災地支援のために開発した缶詰「三鉄前向きカレー」と「前向きハヤシ」を買い取り、19日に同町加保のおおやアート村「BIG LABO」で開かれる「大屋手づくり市」で販売する。

委員会は5月12日、鳥取大地域学部の光多長温・特任教授と地元の人で発足。震災で駅舎や線路に大きな被害が出た三陸鉄道が地元の食材を使って、今年4月に発売したカレーやハヤシを買い取ることで支援する計画を立てた。



の1缶800円で各60個を仕入れ、同じ値段で販売する。大屋手づくり市は午前10時から午後4時まで。地元の人たちが約40のブースで、アート作品や雑貨、パンやコロッケ、うどんなど地元の食品などを販売。小学生の手づくり市や音楽ラ

イフもある。今後カレーとハヤシの各種イベントなどでの販売、カレー以外の支援策の展開も計画している。問い合わせは大屋市民センター「おおや村役場の会」内の事務局(079・669・0120)へ。

前向きカレーとハヤシは、岩手の短角牛をヤマブドウに漬け込んで軟らかさやうまみを引き出している。やや多めの230gのルーを非常食にもなる缶詰にした。通常は同鉄道の駅かインターネットでのみ販売という。委員会では定価

カレーを食べて東北を支援しよう

私たちは、3.11の東日本大震災の被災地支援のため、三陸鉄道（岩手県宮古市）が開発した「三鉄 前向きカレー＆ハヤシ」を応援販売しています。

三陸鉄道は3.11の地震で駅舎や路線、橋脚などが崩壊・流出し、甚大な被害を受けました。今でも全線復旧していません。会社では、鉄道事業以外での事業継続の取り組みとして、東日本大震災津波被災復興祈願レールとして販売したり、各種物販やイベント等の事業にも力を入れていて復興に取り組んでいます。

三陸鉄道では、北リアス線久慈駅―田野畑駅間の運行開始を記念して、この4月から被災地支援の一環で「三鉄 前向きカレー、ハヤシ」を開発・販売しました。「前向きになって復興に進む」との意味かが込められているようです。

私たちも被災地支援の何か協力できないかと考え、「三陸鉄道を勝手に応援する会」と連携して、市内のイベント等で販売することにしました。みなさんのご協力をお願いします。



【商品の特色】

- ①岩手短角牛をヤマブドウに漬け込み、柔らかく美味しい味にしました。
- ②カレールウ以外は全て岩手県産の食材を使用しています
- ③パウチの一般的なカレーよりも内容量が多いです（通常のパウチは200g、本品は230g）

定価 1缶800円（カレー、ハヤシとも）

おおや東北復興支援プロジェクト委員会

事務局：兵庫県養父市大屋町大屋市場 20-1 大屋市民センター内「おおや村役場の会」

（担当：和田）TEL079-669-0120



平成24年5月10日

和田 祐之 局長 様

〒020-0025

岩手県盛岡市大沢川原2丁目5-25

株式会社 岩手食産

TEL:019-622-8700 FAX:019-622-8696



前略

草野様よりご紹介を頂きました(株)岩手食産と申します。

この度は、三陸鉄道「前向きカレー&ハヤシ」をご注文いただき、誠にありがとうございました。

岩手県産の食材にこだわったカレーとハヤシでございます。

今後とも、お引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

草々

なお、この度のお代は光多長温様よりお振込頂いておりますので、お客様からの当口座へのお振込は結構でございます。

納品書

平成24年 5月 9日 伝票No. 00000003

〒 667-0311
 兵庫県養父市大屋町大屋市場20-1
 養父市役所大屋地域局
 和田祐之局長

株式会社 岩手食産
 〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原 2丁目5-25-102
 TEL:019-622-8700 FAX:019-622-8676

様

毎度ありがとうございます。下記の通り納品致しましたのでご査収下さい。

種	商品	数量	単位	単価	金額	備考
1	三鉄 前向きハヤシ	60	個	800	48,000	*
1	三鉄 前向きカレー	60	個	800	48,000	*
6	送料				3,360	*
区分: 1売上 2返品 3単品値引 4値引 5諸雑費 6送料 7出庫 8税額 9摘要				消費税	0	*は税込
[商品計]					94,630	
				合計	99,360	
				(内消費税)	4,730	

請求書

平成24年 5月 9日 伝票No. 00000003

〒 667-0311
 兵庫県養父市大屋町大屋市場20-1
 養父市役所大屋地域局
 和田祐之局長

株式会社 岩手食産
 〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原 2丁目5-25-102
 TEL:019-622-8700 FAX:019-622-8676

様

お振込は、下記銀行へお願い致します。
 岩手銀行 大通支店(普) 2134739

毎度ありがとうございます。下記の通りご請求申し上げます。

種	商品	数量	単位	単価	金額	備考
1	三鉄 前向きハヤシ	60	個	800	48,000	*
1	三鉄 前向きカレー	60	個	800	48,000	*
6	送料				3,360	*
区分: 1売上 2返品 3単品値引 4値引 5諸雑費 6送料 7出庫 8税額 9摘要				消費税	0	*は税込
[商品計]					94,630	
				合計	99,360	
				(内消費税)	4,730	

立替払い 出資金 返金
 99,360円 - 20,000円 = 79,360円

笑顔をつなぐ、ずっと・・・

 **三陸鉄道**
SANRIKU Railway Company

三陸鉄道は必ず復活します。 ご協力ありがとうございます。

三陸鉄道株式会社 代表取締役社長 望月 正彦

東日本大震災により、三陸地域も三陸鉄道も大きな被害を受けました。

三陸鉄道は、国などの支援を受けて復旧工事を進めています。4月から北リアス線久慈、田野畑駅間で運転を再開しました。そして2年後には全線で運転を再開する予定です。

三陸鉄道は、地域で前向きに頑張っている生産業者の方々と協力しながら地域活性化に貢献します。

八幡平市「ワイルドグレープファーム」と久慈市「総合農舎山形村」のコラボ商品です。

こだわり食材の「前向きカレーと前向きハヤシ」をご賞味ください。

今後とも、三陸鉄道をよろしくお願いいたします。



島越駅駅舎とホーム



三陸の朝日



北山崎



三陸鉄道車両

久慈市山形村にて有機および減農薬栽培の農産物を用い、添加物を使用しないというスタイルで食品加工しています。

短角牛

いわて短角牛は春になると自然豊かな牧草地帯に放牧され、冬には里におりてくる昔ながらの「夏山冬里」方式と呼ばれるストレスのない方法で飼育されています。

飼料は乾草や稲わら、国産の配合飼料のみというこだわりで、健康に育った牛のサシ(脂身)の入らない締まった赤身の持つ牛肉本来の美味しさが人気を集めています。



笑顔をつなく、ずっと…。三陸鉄道

岩手県の誇る、岩手短角牛を品質最高の減農薬山ぶどうに漬け込んだ高級カレー&ハヤシができあがりました。三陸鉄道が地域生産者と一体になって復興に取り組む商品です。

WILDGRAPE FARM

内陸北部の寒暖の差が厳しい八幡平の大自然の中、農薬散布を一切せずに山ぶどうを育てている農園です。

山ぶどう

甘酸っぱく濃厚な果汁が特徴の山ぶどうは、古くから滋養強壮に良いとされ、地元の人々は果汁を飲んだり料理に使ったりと健康のために生活に取り入れてきました。

普通のぶどうの数倍のポリフェノール、鉄分、ビタミンを含む、栄養価の優れた果実です。

小粒で可食部が少ない為その果汁は大変貴重です。



三鉄前向きカレー・ハヤシ



レシピ考案: WILDGRAPE FARM

加工: 総合農舎山形村

山ぶどう農家の味を専属シェフが再現しました。

岩手の誇る高級食材、山ぶどうの果汁にしっかり漬け込んだいわて短角牛をじっくり時間をかけて煮込んだカレー・ハヤシです。

食品添加物無添加、減農薬および有機栽培の国産野菜を使った安心安全な本格派です。

※写真はイメージです。

笑顔をつなぐ、ずっと…。三陸鉄道

三鉄
前向きカレー&ハヤシ

岩手が誇る食材のコラボレーション

SANRIKU TETSUDOU



×

WILDGRAPE FARM



×

SOUGOUNOUSHI
YAMAGATAMURA



 三陸鉄道

販売協力 岩手食産株式会社



東北復興支援プロジェクト

カレーを食べて東北を支援しよう

私たちは、3.11 被災地支援のため、三陸鉄道（岩手県宮古市）が開発した「三鉄 前向きカレー＆ハヤシ」を販売します。

三陸鉄道は3.11の地震で駅舎や路線、橋脚などが崩壊・流出し、甚大な被害を受けました。今でも全線復旧していません。会社では、鉄道事業以外での事業継続の取り組みとして、東日本大震災津波被災復興祈願レールとして販売したり、各種物販やイベント等の事業にも力を入れていて復興に取り込んでいます。

三陸鉄道では、北リアス線久慈駅 田野畑駅間の運行開始を記念して、この4月から被災地支援の一環で「三鉄 前向きカレー、ハヤシ」を開発・販売しました。「前向きになって復興に進む」との意味かが込められているようです。

私たちも何か協力できないかと考え、「三陸鉄道を勝手に応援する会」と連携して、この商品を買取りして、多くの方々に購入していただき、支援をすることにしました。

カレーもハヤシも岩手県の特産品「岩手短角牛」を「ヤマブドウ」に漬け込むなど、味にこだわり、素材にこだわった贅沢な商品です。ぜひ、ご賞味ください。



【商品の特色】

岩手短角牛をヤマブドウに漬け込み、柔らかく美味しい味にしました。

カレールウ以外は全て岩手県産の食材を使用しています

パウチの一般的なカレーよりも内容量が多いです（通常のパウチは200g、本品は230g）

三陸鉄道の駅で販売しています。

定価 1缶 800円（カレー、ハヤシとも）

協力団体及び個人

おおやアート村協議会、「鉱石の道」明延実行委員会、おおや村役場の会、光多長温、中尾一郎、田路寿美、田村英幸、長瀬邦彦、田村和也、和田祐之

随時、受付しています

おおや・東北復興支援プロジェクト委員会事務局

兵庫県養父市大屋町大屋市場 20-1 養父市大屋地域局内「おおや村役場の会」（担当：和田）

079-669-0120